

島尻地区中体連 40周年記念誌



島尻地区中学校体育連盟

創立40周年記念式典 ～ 祝辞 あいさつ ～



祝 辞
県中体連会長 大浦武先生



挨拶
地区中体連会長 具志堅弘先生



開会宣言
地区副会長 長嶺文男先生



祝 辞
島尻教育事務所長 上原雅志先生



祝 辞
教育長会会長 山城馨教育長



回 顧
地区理事長 神里齐先生

創立40周年記念式典 ～ 感謝状授与 ～



創立40周年記念式典 ～ 感謝状授与 ～



受賞者代表あいさつ
嘉味田潤先生

創立40周年記念祝賀会 ～ 幕開け ～



幕開け

知念中学校校長 宮城 伸子先生
南星中学校 辻由加里先生



開会のあいさつ

副会長 長嶺 文男先生



乾杯のあいさつ

前会長 宮城 調仁先生



激励のあいさつ

校長会会長 大城 明先生

創立40周年記念祝賀会 ～ 余興 ～



南星中学校
創作ダンス(新体操部)



中学校
ヒップホップダンス



長嶺中学校
無限太鼓

創立40周年記念祝賀会 ～ 余興 ～

バスケット専門部



野球専門部

創立40周年記念事業 ～ 新人大会優勝旗贈呈(テニス競技) ～





「 式 辞 」

島尻地区中学校体育連盟
会長 具志堅 弘

本日ここに、島尻地区中学校体育連盟統合40周年記念式典を挙げるにあたり、多数のご来賓並びに関係各位のご臨席を賜り盛大に開催できますことは、このうえない喜びであり、皆様と共に喜びを分かち合いたいと思います。

ご承知のとおり、島尻地区中学校体育連盟は県中体連の組織編成のもと、昭和50年に知念地区と糸満地区の2地区が教育事務所単位の統合により結成され、今年度で40周年目の節目を迎えることになりました。

統合当初の加盟校は20校で発足していますが、現在は加盟校も25校に増えております。

島尻地区中学校体育連盟は、中学生の健全な心身の育成と、体育・スポーツ活動の振興を図り、中学校教育の充実発展や「生きる力」の育成に寄与することを念頭に組織的な活動を推進して参りました。

近年、本地区中体連の競技力向上はめざましく、先ほど、神里理事長の会務報告でもありましたように、今日まで各種競技で県大会や九州・全国大会で顕著な実績をあげております。

島尻地区中学校体育連盟は、創立40周年という意義深い節目を迎えるにあたり、長年ご指導・ご支援賜りました諸先輩方に対し感謝と敬意を表すると共に、これまでに多くの先輩方が築き上げてこられた輝かしい歴史と伝統を継承していきたいと思っております。

また、今後の部活動の在り方を研究し、その進方向性を見定め、これからも中学生の健全な心身の育成と体育・スポーツの振興を目指し、各学校職員、保護者・地域・教育関係及び競技団体等のご指導、ご協力を賜り、組織の強化と事業内容の充実・発展に全力をあげて努力していきたいと考えております。

結びになりましたが、本日の式典・祝賀会及び記念誌(31周年～40周年)の発行にあたり、ごあいさつやご祝辞及び貴重な資料等を提供していただきました皆様をはじめ、ご臨席をたまわりました皆様に感謝するとともに、今後も本連盟へご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます、式辞といたします。

「 祝 辞 」

沖縄県教育庁島尻教育事務所 所 長 上 原 雅 志

島尻地区中学校体育連盟が創立40周年を迎えられましたことに対し、心からお祝いを申し上げます。

貴連盟は、学校教育関係先輩諸氏の多大な後尽力により、『島尻は1つ』を合い言葉に、知念地区、糸満地区の両連盟を統合し、大城政敏会長、比屋根方次理事長のもと昭和50年に島尻地区中学校体育連盟として結成されました。以来、本地区中学校の体育・スポーツ活動の振興を図り、健康の保持増進、体力の向上、学校生活の活性化及び生徒の自尊感情の向上などに大きく寄与してきたことに対し、深く敬意を表すとともに、衷心より感謝を申しあげます。

また、永年にわたり本地区中学校の部活動指導にご尽力下さった皆様が、本日、晴れて表彰されますことに、心から感謝お祝い申し上げるとともに深く感謝申し上げます。

さて、これまでの10年間を振り返りますと、全国大会において与那原中学校の上原貴哉さんが柔道で日本一に輝いたことをはじめ、南風原中学校の城間銀次郎さんが走高跳で193cmを記録し3位という快挙をあげました。九州大会において、大里中学校ソフトボール部、南星中学校男子硬式テニス部、豊見城中学校野球部、具志頭中学校サッカー部が優勝、与那原中学校男子卓球部、東風平中学校女子バスケット部、佐敷中学校男子バスケット部が準優勝という素晴らしい活躍があります。

県大会においても、南風原中男子柔道部が6連覇、糸満中男子バドミントン部が4連覇、西崎中男子柔道部が3連覇、長嶺中女子バレー部が5度の優勝を成し遂げるなど、枚挙に暇がないほど素晴らしい活躍があります。

これらの大きな成果は、競技力の向上や体力の向上、ひいては豊かな心の育成に御尽力くださいました歴代会長並びに役員、部顧問、外部指導者の皆様の永年の努力と熱意の賜であると確認しております。

子どもたちはスポーツをとおして、仲間や指導者と深くかかわり合うなかで、コミュニケーション能力を養い、豊かな心と他者に対する思いやりを育み、さらには、多様な価値観を認め合うことのできる態度を養うなど、社会生活を営むための基盤を培うことができ、生徒が明るく豊かな生活を築く素地の形成がなされたと考え、喜びに絶えません。

このような意味においても貴連盟の果たす役割は、今後ますます大きくなっていると考えます。

結びになりますが、島尻地区中学校体育連盟が、たくましく未来を切り開く力を持った心身共に健康な生徒の育成に向け、組織の一層の充実・結束が図られますとともに、本地区の体育・スポーツの振興・発展に更なる御尽力を賜りますようお願い申し上げます、祝辞といたします。

本日は誠にありがとうございます。

祝 辞



島尻市町村教育長会
会 長 山城 馨

島尻地区中学校体育連盟が、統合40周年を迎えるに当たり、心からお祝い申し上げます。

本体育連盟は、昭和50年統合以来、長期にわたり、中学校教育の一環として、本地区中学生の健全育成と体力の増進、学校教育・スポーツの普及・発展、競技力の向上に大きく貢献してこられました。これも偏に、島尻地区中学校体育連盟関係者の深いご理解とご協力、厚い情熱の賜と心から敬意を表するとともに、今後の更なる活躍に大きな期待を抱いているところであります。

特に、近年の地区内中学生の競技力の向上はめざましいものがあり、県内はもちろんのこと、九州中学校体育大会、全国中学校体育大会等において、優勝や上位入賞を果たすなど、その活躍は目に見張るものがあります。

ご承知のように、知、徳、体の調和のとれた成長を図り、心身ともに大きな成長を遂げる中学生のこの時期に学業に励み、運動部活動を通じて日常的にスポーツに親しむことは、たくましい心と体を育む上で大きな意義を有するものであり、個々人の個性や能力を伸ばし「生きる力」を育む上で、島尻地区中学校体育連盟の果たす役割は極めて大きなものがあります。

また、体育・スポーツ活動に関する指導等においては、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、豊かなスポーツライフの基礎を培う観点に立ち、学習指導の工夫・改善を図り、運動部活動の活性化や適正化を促進し、発達段階に応じた基礎的な体力の向上に努めていただきたいと思います。

島尻市町村教育長会は、運動部活動、スポーツ活動の適正化を図るための共通実践事項を作成し、島尻管内の市町村教育委員会をとおして全ての小中学校に共通実践を依頼しているところです。島尻地区中学校体育連盟及び関係者と連携を図りながら中学生のスポーツ活動及び体力・競技力の向上並びに青少年健全育成に取り組んでまいりたいと思います。

結びに、島尻地区中学校体育連盟が、統合40周年の節目の契機として、役員はじめ関係者各位が一致協力され、次代を担う生徒の健全育成とスポーツの振興発展に更なるご尽力を賜りますようお願い申し上げますとともに、本体育連盟の限りないご発展を心から祈念申し上げ、祝辞と致します。

祝 辞



沖縄県中学校体育連盟
会長 大浦 武

島尻地区中学校体育連盟が統合40周年の節目を迎えられますことに、心からお祝いと感謝を申し上げます。

さて、本土より遅れること約10年の歳月を経て、1959年（昭和34年）1月19日に沖縄県中学校体育連盟が結成され、昭和47年本土復帰に伴い、県中学校体育連盟の組織改革が行われました。

昭和49年には、それまでの12地区が教育事務所単位の6地区に統合され、それに伴い、島尻地区におきましても、昭和50年に知念地区と糸満地区を統合し、島尻地区中学校体育連盟が合併、40年目を迎えました。

この間の貴連盟の歩みを拝見しますと、結成以来、生徒の体力の向上や健康の保持増進、学校体育の振興をはじめ青少年健全育成、スポーツの振興・発展にご尽力をされてきました。

その成果として、九州大会や全国大会においても上位入賞する競技も多数出てきております。その中でも、全国大会での軟式野球での佐敷中学校の3位入賞をはじめ、個人の部では柔道競技で準優勝と3位という成績を収めました。

また、平成16年度から25年度の九州大会においては、ソフトテニス女子とバスケット女子で東風平中、卓球男子で与那原中が準優勝、柔道男子で西崎中と南風原中、バレーボール女子で長嶺中、バドミントン女子で高嶺中、ソフトテニス女子で糸満中が3位入賞し、個人の部では、水泳、ソフトテニス、テニスの優勝、陸上、水泳、柔道等で準優勝、陸上、水泳、ソフトテニス、バドミントン、柔道で3位というすばらしい活躍がありました。

結成40周年を迎えた本年度は、九州大会で佐敷中の男子バスケットボールが準優勝、伊良波中の男子テニスで3位、県大会においては、団体種目7競技で優勝するなど素晴らしい活躍があり、県内スポーツ界に大きな夢と感動を与えることができました。改めて関係各位のこれまでの御尽力、御苦勞に対し、高く評価するとともに、心より感謝する次第であります。

ところで、学習指導要領の総則には、「部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一貫として、教育課程との関連が図れるように留意すること」と明記され、私たち部活動指導者には、さらに運動部活動を充実させていくことが求められております。

県中体連としましても、本連盟の目的と役割を深く胸に刻み、6地区中体連をはじめ関係機関・団体等々との連携をさらに深め、生徒の運動部活動を通じた夢や希望の実現に向け、一層努力し、頑張っていく所存であります。

貴連盟におかれましては、これらのことについてのご理解と更なるご協力を賜り、40周年の輝かしい実績と経験を今後の活動に生かしていただきますとともに、生徒の健全育成と体力の向上、競技力の向上に寄与され、より一層の組織の充実によるご活躍をご期待申し上げます。

結びに、具志堅弘会長をはじめ、歴代会長、旧役員、記念事業を推進された現役員の方々の御勞苦に深く敬意を表するとともに、島尻地区中学校体育連盟の益々の飛躍と御発展を祈念し、祝辞といたします。

歴代専門部長

競技名(バレーボール)

西暦	年号	専門部長名(学校)
2005年	平成17年	平田 和也(兼城)
2006年	平成18年	金城 幸憲(兼城)
2007年	平成19年	金城 幸憲(兼城)
2008年	平成20年	大城 吉明(長嶺)
2009年	平成21年	大城 吉明(長嶺)
2010年	平成22年	大城 吉明(長嶺)
2011年	平成23年	金城 幸憲(長嶺)
2012年	平成24年	金城 幸憲(長嶺)
2013年	平成25年	渡名喜 優(南星)
2014年	平成26年	渡名喜 優(南星)



平田 和也

～平成17年



金城 幸憲

平成18年～19年



大城 吉明

平成20年～22年



金城 幸憲

平成23年～24年



渡名喜 優

平成25年～26年

(バレーボール競技)

☆地区夏季大会 (第31回~40回)

回	西暦	男子		女子	
		優勝校	準優勝	優勝校	準優勝
31	2005	兼 城	南風原	与那原	兼 城
	監督 コ-チ	平田 和也	嘉手苺 保 座安 京子	神村 拓郎 諸見里 香	大城 吉明 沖 さやの
32	2006	潮 平	南風原	長 嶺	東風平
	監督 コ-チ	仲村 智	神谷 一夫 鎌田 浩栄	大城 吉明 長尾 絵美	奥原 絵理子 渡嘉敷 信也
33	2007	玉城	具志頭	長 嶺	豊見城
	監督 コ-チ	仲吉 謙 當山 拓哉	大城 盛一朗 福 京子	大城 吉明 真栄平紋子	山田 正策 新里 稔
34	2008	豊見城	長 嶺	豊見城	長 嶺
	監督 コ-チ	渡名喜 優 平安山 英次	仲里道信	山田 正策 新里 稔	大城 吉明 真栄平紋子
35	2009	豊見城	大 里	長 嶺	兼 城
	監督 コ-チ	池田 武 平安山 英次	上原秀樹	大城 吉明 真栄平紋子	金城 幸憲
36	2010	豊見城	与那原	長 嶺	豊見城
	監督 コ-チ	池田 武 平安山 英次	下里 守 砂川直人	大城 吉明	新垣夏美 金城秀雄
37	2011	与那原	豊見城・伊良波	南星	伊良波
	監督 コ-チ	下里守 蓬原沙也香	池田武 平安山英次	有銘真一郎 長嶺 聖佳	具志吉正 神谷清二
38	2012	東風平	与那原	長嶺	大里
	監督 コ-チ	井上晋吾 大城みゆき	下里守 金城美佳	金城幸憲 上原 進	宮城浩也 新垣博子 波照間生子
39	2013	与那原	長嶺	伊良波	知念
	監督 コ-チ	仲里道信 金城房子	仲村智 亀谷省吾	具志吉正 神谷清二	赤嶺直子 山内郁子
40	2014	豊見城	与那原	知念	長嶺
	監督 コ-チ	新垣諒 宮城調仁	池田武 仲里道信	高嶺智徳 山内郁子	金城幸憲 神山千枝

(バレーボール競技)

☆地区新人大会 (第31回~40回)

回	西暦	男子		女子	
		優勝校	準優勝	優勝校	準優勝
31	2005	兼 城	南風原	与那原	兼 城
	監督 コ-チ	平田 和也	嘉手苅 保 座安 京子	神村 拓郎 諸見里 香	大城 吉明 沖 さやの
32	2006	潮 平	南風原	豊見城	長嶺
	監督 コ-チ	仲村 智	神谷 一夫 鎌田 浩栄	山田 正策 大城 光明	大城 吉明 長尾 絵美
33	2007	豊見城	長 嶺	長 嶺	豊見城
	監督 コ-チ	渡名喜優 平安山英次	仲里 道信	大城 吉明 真栄平紋子	山田 正策 新里 稔
34	2008	豊見城	大里・与那原	長 嶺	知 念
	監督 コ-チ	渡名喜優 平安山英次	井上 晋吾	大城 吉明 真栄平紋子	山内 康宏
35	2009	豊見城	与那原	長 嶺	豊見城
	監督 コ-チ	池田 武	砂川直人	大城 吉明 真栄平紋子	宮城玲奈 神里竜也
36	2010	与那原	長嶺	南星	長嶺
	監督 コ-チ	下里 守	具志 吉正 仲里 道信	有銘 真一郎 長嶺 聖佳	大城 吉明
37	2011	東風平	与那原	南星	長嶺
	監督 コ-チ	井上晋吾 許田恵	下里 守	有銘 真一郎 長嶺 聖佳	金城幸憲 上原進
38	2012	豊見城	長嶺	伊良波	豊見城
	監督 コ-チ	池田 武	仲村智 亀谷省吾	具志吉正 神谷清二	神里斉 新垣夏美
39	2013	長嶺	伊良波	伊良波	兼城
	監督 コ-チ	仲村 智 亀谷 省吾	大谷 直子 上原 幸枝	具志吉正 神谷清二	新垣 美野 神山 史子
40	2014	与那原	西崎	長嶺	伊良波
	監督 コ-チ	池田 武 仲里道信	中田和樹	金城幸憲 神山千枝	与那霸秀俊 神谷清二



「さらなる発展へ」

バレーボール専門部長
氏名 渡名喜 優

島尻地区中学校体育連盟40周年おめでとうございます。これまでご尽力された諸先輩方に厚く御礼申し上げます。また、平成26年度の島尻地区中学校体育連盟におかれましては、会長の具志堅弘先生をはじめ、多くの先生方にお世話になり、大会を無事運営することができましたことを心よりお礼申し上げます。

さて、この大きな節目にバレーボール専門部長として関わることができ、誠に感慨深いものがあります。島尻地区バレーボール専門部は年を重ねるごとに組織としての熟成が図られ、今年度においては、多くの県大会において、優秀な成績を残すことができました。第56回沖縄県中学校バレーボール競技大会においては、ベスト8の中に、5チームが島尻地区のチーム、ベスト4には2チームが残ることができ、準優勝の兼城中学校は九州大会出場と活躍しました。先日の九州選抜優勝大会では、優勝伊良波中学校、準優勝豊見城中学校と島尻2チームが独占し、九州大会派遣という偉業を達成しています。これは専門部創設以来、初めての快挙であります。次年度もさらなる活躍が期待されているところです。

このように、島尻地区の生徒が活躍している背景には、小学校の指導者や地域の関わり、また、保護者の協力、これまでの島尻地区バレーボール専門部にご尽力頂いた先生方のお力添えがあったからだと考えております。これからも、諸先生方の支えのもと、島尻地区の生徒の飛躍を願い、また、オリンピック選手が輩出されることを期待しながら運営を進めていきます。

結びに、これからの島尻地区中学校体育連盟のさらなる発展のため、バレーボール専門部も邁進していきますので、これからも引き続きご指導とご協力をお願い申し上げます。

バドミントン競技

歴代専門部長

代	年	専門部長名
初代	昭和 57 年～ 60 年	城間 明
二代	昭和 61 年～平成 17 年	与那嶺 明
三代	平成 18 年～ 22 年	大城 喜史
四代	平成 23 年～ 24 年	新垣 悟
五代	平成 25 年～ 26 年	大城 喜史

栄光の足跡

夏季大会

年度	男子				女子			
	優勝	準優勝	三位	三位	優勝	準優勝	三位	三位
2005年 平成17年度	潮平 与那嶺明	大里 川満麻陽	渡嘉敷 屋富祖淳	南風原 依田羊一郎	高嶺 長田宗彦	糸満 島崎祐之 川満則明	大里 宮城清英	潮平 与那嶺明
2006年 平成18年度	渡嘉敷 新垣 真	高嶺 糸数貴之	大里 嘉数雄信	西崎 吉元康王	高嶺 長田宗彦	大里 宮城清英	潮平 与那嶺明	西崎 平良勝彦
2007年 平成19年度	西崎 吉元康王	渡嘉敷 古謝将史	糸満 宮城清英	高嶺 糸数貴之	大里 山入端明子	西崎 仲宗根えりか	高嶺 新垣清行	潮平 山内庸子
2008年 平成20年度	糸満 大城一輝	渡嘉敷 金城弘典	高嶺 石川 創	西崎 吉元康王	玉城 津波古要	高嶺 安里順一	西崎 内盛美貴	伊良波 大城喜史
2009年 平成21年度	糸満 大城勝也 川満則明	西崎 吉元康王	三和 亀川善久	座間味 柴田義之	糸満 大城勝也 上原源三	玉城 津波古 要 大城正治	栗国 佐藤 忍	西崎 金城 誠 新垣正人
2010年 平成22年度	糸満 笹木寛太 川満則明	栗国 座間味栄行 高良 優	南風原 大城 忍 崎原正光	渡嘉敷 金城弘周 赤嶺孝幸	糸満 鉢嶺貴子 上原源三	東風平 与那嶺明 金城 勲	西崎 内盛美貴	栗国 佐藤 忍 高良 優
2011年 平成23年度	南風原 大城忍 崎原正光	栗国 小禄真也・高良優	西崎 大城貴寛 新垣洋	東風平 山城新源 知念正太	糸満 新崎峰子 上原源三	西崎 崎原升・金城潤 上原善徳	伊良波 仲嶺貴恵 須磨久美	高嶺 大城玲子 玉城由加里
2012年 平成24年度	糸満 大城 尚 川満則明	南風原 大城忍 崎原正光	栗国 小禄真也 高良 優	東風平 山城新源 知念正太	糸満 大城貴寛 上原源三	玉城 幸地五月 嶺井 栄	伊良波 野崎由紀夫 神里 那美	南星 福士さくら 赤嶺光明
2013年 平成25年度	栗国 小禄真也 田港朝也	渡嘉敷 知念良弥 山城 淳	東風平 山城新源 知念正太	西崎 高良 優 新垣 洋	南星 福士さくら 赤嶺光明	伊良波 仲嶺貴恵	糸満 野村和歌子 上原 源三	玉城 上原理恵 嶺井 栄
2014年 平成26年度	栗国 具志吉正 山城新源	南風原 知念 翼 崎原正光	糸満 村濱綾香 川満則明	渡嘉敷 知念良弥 新里 勝	潮平 高宮城実康 山口珠里	糸満 野村和歌子 上原 源三	玉城 玉城 秋菜 大城 正治	伊良波 二木 瞳 大城 忍

栄光の足跡 新人大会

年度	男子				新人大会 女子			
	優勝	準優勝	三位	三位	優勝	準優勝	三位	三位
2005年 平成17年度	大里 川満麻陽	高嶺 宮里優作	西崎 吉元康王	渡嘉敷 屋富祖淳	高嶺 長田宗彦	大里 宮城清英	潮平 与那嶺 明	西崎 平良勝彦
2006年 平成18年度	西崎 吉元康王	糸満 富山直美	渡嘉敷 新垣 真	高嶺 新里 健 司	大里 宮城清英	潮平 与那嶺 明	西崎 平良 勝彦	高嶺 長田宗彦
2007年 平成19年度	糸満 大城一輝	渡嘉敷 古謝将史	潮平 山内すみれ	高嶺 糸数貴之	糸満 宮城清英	玉城 宜保めぐみ	西崎 仲宗根えりか	兼城 砂川由乃
2008年 平成20年度	糸満 鉢嶺貴子	渡嘉敷 古謝将史	三和 小松佐知子	潮平 山内すみれ	玉城 津波古要	糸満 大城勝也 上原 源三	西崎 内盛 美貴	東風平 与那嶺明 金城 勲
2009年 平成21年度	糸満 上原善徳 川満則明	栗国 座間味栄行 佐藤 忍	渡嘉敷 金城弘周 赤嶺孝幸	東風平 金城義樹 金城勲	西崎 金城 誠	糸満 宮城達子 上原 源三	東風平 与那嶺明 金城 勲	高嶺 安里順一 玉城由加利
2010年 平成22年度	南風原 大城 忍 崎原正光	西崎 大城貴寛	大里 足立克枝 濱本哲久	栗国 座間味栄行 高良 優	糸満 鉢嶺貴子 上原源三	西崎 内盛美貴	玉城 新垣悟 嶺井栄	伊良波 儀保真理子 中 太一
2011年 平成23年度	糸満 大城尚 川満則明	潮平 亀川敦志 城間尚人	東風平 山城新源 知念正太	南風原 大城 忍 崎原正光	伊良波 仲嶺貴恵 須磨久美	西崎 崎原リナ 上原 善徳	糸満 新崎峰子 上原源三	玉城 新垣悟 嶺井栄
2012年 平成24年度	栗国 小禄真也 高良 優	渡嘉敷 小橋川剛 赤嶺孝幸	東風平 山城新源 知念正太	西崎 山入端明子 新垣 洋	伊良波 野崎由紀夫 二木 瞳	南星 福士さくら 赤嶺 光明	与那原 与那嶺 明	糸満 大城貴寛・ 上原源三
2013年 平成25年度	南風原 大城忍 崎原正光	潮平 真栄城枝理 平良明子	糸満 村濱綾香 川満則明	渡嘉敷 知念良弥 山城 淳	糸満 野村和歌子 上原源三	玉城 上原理恵 山入端 彰	伊良波 仲嶺貴恵 須磨久美	与那原 与那嶺明 知花綾子
2014年 平成26年度	糸満 村濱綾香 川満則明	栗国 具志吉正 山城新源	渡嘉敷 知念良弥 新里 勝	長嶺 比嘉麻乃 金城 智	糸満 野村和歌子 上原源三	玉城 玉城 秋菜 大城 正治	西崎 金城 忍 上原 善徳	長嶺 池間 愛 赤嶺健次郎

十年

南城市立佐敷中学校
大城 喜史

今年度で三十二年目を迎えたバドミントン競技であるが、専門部長を務めたのは初代の城間明先生、二代目の与那嶺明先生(現与那原中)、三代目五代目の私、四代目の新垣悟先生(現玉城中)の四人である。城間先生、与那嶺先生の二人は学生時代からのバドミントン経験者で指導力に優れ、誰もが認めるバドミンントンの専門部長であった。それが十年前、恩師である与那嶺先生から、十年近いバドミントン部顧問としての活動を認めてもらえ、専門部長という大役を任された。不安でいっぱいの中これまでの専門部長の功績に恥じぬように必死で職務をこなし、手探りで大会運営を行うことだけに必死になっていた日のことが今でも思い出される。

ここで、改めてこの十年の専門部長としての活動を振り返ってみたい。

私が専門部長として最初に取り組んだのは、各学校顧問の連携である。当時、宮城清英先生、与那嶺明先生という沖縄県を代表する指導者に対して、指導方法や競技に関する考え方などを聞く機会があまりなかった。そこで、宮城先生、与那嶺先生にお願いして講習会や合同練習を行い、選手の競技力向上に取り組んだ。また、大会運営も全顧問交代で行うことで、お互いに協力し、気軽に話ができる機会を作るように努めた。そのおかげで今では、大会の本部席に多くの先生方が気軽に足を運んでくれるようになった。

しかし、この10年取り組実の中で課題も残されている。その一つは、地域との連携である。現在、県のトップレベルの選手は小学生からクラブチームなどでバドミントンをしている選手がほとんどで中学生から始めた選手の多くは、三年生の最後の夏季大会でベスト四に入るのが精一杯という状況になっている。素晴らしい選手を多く育ててきた宮城先生は三年前に退職、与那嶺先生も今年度で退職し、島尻地区のバドミントン競技は過渡期を迎えていると思う。今後、競技力向上のためには教員だけでなく、地域の方々と一緒に取り組み、よりレベルの高い選手の育成に努めなければならないのではないかと考える。幸いにも小学生を指導し、全国レベルの選手を輩出している川満氏、上原氏が身近にいる。お互いが協力して選手育成に尽力することにより、今後、沖縄、島尻から、オリンピックを目指せる選手が育っていくと私は思う。

最後に、島尻地区の各競技が切磋琢磨し、すべての競技で県大会、九州大会で活躍できるように島尻地区中学校体育連盟がますます発展していけるようにともに努力していけたらと思います。

私とバドミントン

与那原市立与那原中学校
与那嶺 明

島尻地区中学校体育連盟40周年、おめでとうございます。

島尻地区でのバドミントン競技は地区中体連が発足して9年後に、そして地区夏季大会開催から2週間ほど遅れて始まったと聞いています。

私自身はその年(1984年)に神奈川県にある県立武山養護学校から大里中に新採用として沖縄県に戻ってきた年(29歳)でした。赴任校の大里中では女子ソフトテニス部の顧問で地区夏季大会にも参加をしていました。2週間遅れで開催するバドミントン競技の当時専門部長である城間明先生から「大会を観戦に来てほしい」「閉会式で講評を述べてほしい」という電話をいただきました。「なぜ、私が？」という思いでしたが、城間先生に何うと「島尻地区には学生時代にバドミントン競技を専門にして活動していた職員がいない」ということでした。それで私に白羽の矢が立ったのでしょう。

当時は城間先生が勤めていた三和中学校体育館が大会会場でした。体育館の中にはシャトルが飛ぶコースに吊り輪の設備があり、バドミントン競技には適した体育館ではありませんでした。参加している学校も多くはありませんでしたが熱のこもった試合を展開していました。

私のバドミントン部顧問としてのスタートはこの試合観戦と講評から始まったようなものです。講評をした私も早くバドミントン部を立ち上げて、大会へ参加をしたいという強い思いが出てきました。

結局、その年の夏休み終了後、1年男子数名を集めて同好会から出発しました。それから30年間、バドミントン部の顧問を続けています。

私がバドミントン競技に係わってきた30年を振り返ると私を後押ししてくださる、たくさんの人との出会いがありました。

まず、神奈川県から大里中に赴任した年、新築の体育館床面にラインを引く作業が行われる前に体育主任の永山清勝先生から「与那嶺先生、大里中で将来バドミントン部を作るでしょ！バドミントンコートも引いておきましょうか？」という話があり、「是非お願いします！」と返事をし、6面のコートを作ってもらいました。そこで指導者としての基盤が作られました。

大里中から三和中に異動する時も当時三和中学校の校長先生だった比嘉先生から「次は三和中に来なさい」と誘いを受け、大里中のライバルだった三和中への異動となりました。次は三和中からバドミントン部の無い知念中への転勤でした。しかし、体育主任の大城洋子先生が「与那嶺先生が来たらバドミントン部をつくるはずだから」と言って、私が赴任したときには部員もないのに「バドミントン部顧問」となっていました。

次の潮平中では新設校で校舎も体育館も新築の学校でした。赴任が決まって学校を訪問したときに大城侑校長先生に体育館の図面を見せていただきました。バドミンのコート数が4面しか無い設計でしたので校長先生にまだライン引きが始まっていないのなら6面に変更して下さいをお願いをしました。4月1日を迎えて体育館をフロアをみると6面のコートが引かれており、配慮してくださった校長先生に感謝の気持ちを伝えました。

そのあとは東風平中、与那原中と赴任をして今年、退職を迎えます。

島中体連40周年の中でバドミントン競技は31年目ですが、私はその中で30年間係わって来ました。専門部長も19年間行いました。

バドミントンといえば島尻地区という時代が長く続きました。10年ほど前から中頭地区が強くなり、島尻地区が優勝できなくなりました。しかし今年度は女子団体ベスト4に島尻地区から3校が入り、復活の兆しが見えます。以前のようにバドミントンといえば島尻地区と言われるように今後の活躍を期待したいと思います。

バドミントン競技が今後栄えるためにも島中体連の盛り上がりがとても必要だと思います。これからの島尻地区中学校体育連盟の活躍に期待をしたいと思います。

バドミントン競技から感じたこと

南城市立玉城中学校
新垣 悟

島尻地区中学校体育連盟40周年おめでとうございます。

私が地区バドミントン競技に関わり、10年以上が経過しました。その間、微力ながら地区専門部長として2年間運営に携わってきました。その中で、感じた点をいくつか述べたいと思います。

私がバドミントン競技に関わって感じたことは、島尻地区における競技人口の多さです。夏季大会や新人大会においては団体戦のみならず、個人戦もおこなわれ、部員が1名でも参加できるということから、小規模校、特に離島校は部活動として取り組みやすいことがその理由の一つとしてあげられるかと思えます。また、個人戦も開催されることから1つの学校から多くの生徒が出場することができます。試合に出場することを通して、勝つ喜びを得ることや、普段から努力することの大切さを学ぶなど、大会を通して成長する姿も多く見受けられることから、生徒には多くの試合経験を積ませるためにも、現在のような大会は必要ではないかと感じています。

逆に、大会運営上、その参加数の多さから、大会が長時間化しがちであり、選手の疲労や体調管理という点においては、改善の必要もあり、今後の課題の一つとなっていくかと思えます。

また、バドミントンを専門とする教員が少ないこともあり、専門外の競技であるにもかかわらずバドミントン部の顧問を持っていることが多くなっています。しかしながら、それぞれの先生方が、熱意を持って部活動に取り組んでおり、このことも多くの生徒がバドミントン競技に興味を持ち、参加している要因の一つと考えられます。

今後、島尻地区のバドミントン競技の発展を考えるに、大会の運営なども含め、各学校の顧問の協力なくしては成り立たず、また、技術指導という面においては各地域において外部コーチとして生徒の技術力向上などに尽力していただいている地域の方々の方々の力も必要不可欠となりつつあります。学校と地域が一体となり、大きな目標を持って生徒の指導にともに取り組んでいくことが、島尻地区のバドミントンの競技力の向上や発展につながっていくと思います。

最後になりますが、島尻地区中学校体育連盟のこれまで以上の発展を想望し、ともに取り組んでいくことができればと思います。

バドミントンを通して

糸満市立糸満中学校

二年 上原 愛枝

私がバドミントンを始めたのは、幼稚園の後半ぐらいからです。きっかけは兄たちがやっていたからです。それから小学生、中学生と競技を続け、今年は夏の県総体での団体優勝と個人戦でのダブルス優勝、沖縄県新人シングルス大会での優勝、団体選手権大会でも優勝するなど、多くの賞を受賞することができました。

私がバドミントンを通して成長したことは、自分に自信が持てるようになったことです。少し前までは、試合に負けていると自分のプレーに対して納得できずに冷静にプレーできませんでした。今も時々冷静にできないこともあります。最後まであきらめずに自分の持っている良いところを意識して最後までプレーできるようになっていきました。

現在、私は糸満中のキャプテンであると同時に沖縄県選抜チームのキャプテンとしてみんなをまとめられるように頑張っています。特に言葉遣いや機敏な行動、誰にでもあいさつすることを心がけ、誰よりも先に気づいて行動できるように頑張っています。

私がこうして楽しくバドミントンが続けられているのは、家族、先生方、コーチ、チームのメンバーのおかげだと思って、とても感謝しています。

三年生に進級し、迎える最後の夏季大会では、団体戦、個人戦ともに県大会で優勝して、九州、そして全国大会に出場できるように日々の練習を大事に、支えてくれている人々への感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきます。

バドミントンを通して学んだこと

糸満市立糸満中学校

二年 新垣 開琉

僕がバドミントンを始めたのは、5歳の頃からです。きっかけは、姉が友達にさそわれてクラブチームに入ったからでした。週5日の練習に、僕は毎回ついて行きみんなが練習しているのを見学するのが楽しみでした。見学中にチームの監督から「一緒にやるか」と誘われてバドミントンを始めました。誘われたときはとても嬉しくて、運動も大好きなので、厳しい練習も楽しくできました。中学生になった今は、体力もつき技術も上達しています。これも監督の厳しい指導と一緒に頑張る仲間と支えてくれた家族がいてくれたからだと思います。

もう一つ、僕が成長したと感じるのは精神面です。糸満中学校男子バドミントン部のキャプテンとして僕が頑張らなくてはいけないことがたくさんあり、特に先輩方が引退した後、部員をまとめたりする経験ができたことが精神面を鍛えたと思います。

三年生になると中学生最後の夏季大会が待っています。目標は地区大会で団体、個人ともに優勝し、県大会でも優勝を目指します。そのためには、今まで以上にトレーニングや基本練習をしっかりと集中してやるのが大事だと思います。苦手なストレッチも欠かさずやろうと思います。

僕が今、一番頑張らなければいけないことは精神面強化です。大事な試合の時にリードしているのに逆転されることがあります。小学生まではそんなことは無かったのに、中学生になり周りとの力の差が無くなってきたことと勝たないといけないというプレッシャーに負けている自分がいます。顧問の先生にも「自分に自信を持ちなさい」とよく言われます。相手にリードされていても強気でプレイできるように絶対にあきらめない強い気持ちを持てるように成長して、夏季大会は臨みたいと思います。

県大会で糸満中学校女子バドミントン部が18年ぶりに優勝しました。僕も絶対に優勝旗を持って帰るように努力したいと思います。

歴代専門部長

競技名（ サッカー ）

西 暦	年 号	専門部長名（学校名）
2005年	平成17年	大嶺 拓（三和中学校）
2006年	平成18年	伊集守 朋（糸満中学校）
2007年	平成19年	伊集守 朋（糸満中学校）
2008年	平成20年	伊集守 朋（糸満中学校）
2009年	平成21年	宮城 義隆（西崎中学校）
2010年	平成22年	宮城 義隆（西崎中学校）
2011年	平成23年	宮城 義隆（西崎中学校）
2012年	平成24年	古謝 将史（豊見城中学校）
2013年	平成25年	古謝 将史（豊見城中学校）
2014年	平成26年	前底 泰仁（三和中学校）



（大嶺 拓）
平成 17 年



（伊集守 朋）
平成 18～20 年



（宮城 義隆）
平成 21～23 年



（古謝 将史）
平成 24～25 年



（前底 泰仁）
平成 26 年～



「サッカー専門部での成長」

専門部長 専門部 サッカー
氏名 前底 泰仁

島尻地区中体連40周年にあたり、現サッカー専門部長としてごあいさつを申し上げます。

私は教育現場に関わって今年で14年目になりますが、最初の年は外部コーチとして、以後はサッカー部の顧問としてサッカー専門部に関わらせて頂いています。そのなかで、「島尻地区サッカーピースリーグ」や「地区トレセン活動」、「島尻U-14選抜千葉遠征(八千代大会)」は私が専門部に関わり始めた頃からスタートし、現在まで継続的、発展的に取り組まれてきています。どの取り組みも「子ども達のために(Players First)」という考え方のもと、先生方の情熱と協力によって少しずつ改善しながらここまで進んできたと感じています。私が部の指導を始めて間もない頃、リーグ戦を通じて多くのチームと対戦しながら、サッカーそのものや、生徒との関わり方について先輩方から学ぶことができ、自分の成長に役立てることができました。サッカーは刻一刻と変化する状況に対応し、より良いプレーを発揮していくスポーツだと思いますが、選手を指導したり、試合の審判をしたりするときには、そのような状況の中で瞬時にアドバイスや決断を下さなければ選手を納得させることはできません。的確な指導やジャッジを行うためには、サッカーに対する理解はもちろんのこと、中学生である選手に対する「理解」や、大人として、何を子どもたちに伝えるべきかという「考え方」、どう伝えるべきかという「関わり方」について、常に自分の中で整理し、筋を通しておくことが必要だと思います。地区トレセン活動や大会の審判などの専門部の活動を通して、このような教員として大切な資質を高める機会が得られたと思っています。最近では、「学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならない」という言葉を専門部の先輩から頂きました。この言葉を前向きにとらえ、情熱をもって子どもたちに関わる先生方の集まりが、現在のサッカー専門部ではないかと感じています。今後も、先輩方が創りあげてきた「島尻地区サッカー専門部の良さ」を発展させていけるように、頑張っていきたいと思っています。



「専門部への感謝、恩返し」

専門部長 専門部 サッカー
氏名 古謝将史

島尻地区中学校体育連盟40周年、心よりお祝い申し上げます。

サッカー専門部の先輩方に声をかけて頂いて、専門部(地区中体連)のあたたかい輪の中に入り始めてからはや19年が過ぎました。大学卒業ばかりで、教師としても指導者としても右も左もわからない中、常にストレートにアドバイスを与えてくださった先輩方の存在は、私の教員生活にとって何物にも代えがたい宝となっております。いま、一教師として、一指導者として、いくらか自信を持てるようになったのも、専門部の先輩方無しにはあり得ないことだと感じております。

7年間の補充経験を含め15年間(離島3カ年、まさかの野球部顧問1カ年は、専門部を離れてましたが)、専門部の運営に携わっていく中で、少しずつ責任のある役職を与えられました。運営の経験を重ねながら、自分なりに「専門部の発展に寄与できることは何か」を考えるようになっていきました。また、気がつけば、若手専門部員に対して、アドバイスをする立場になっていました。その時期でしょうか。「つぎの専門部長は、おまえだ」と、先輩から話をいただいた時のことを今でも覚えております。それから、2カ年(平成24年度、25年度)、専門部長を務めさせていただきました。

私自身、育てていただいたことへの恩返しの機会だと捉え、努力してまいりました。大会運営については、負担を分かち合うことを念頭に「全員専門部制」と称した体制を意識してまいりました。専門外の部顧問であれば、本部での弁当係等、数時間程度の関わりでも対応できる役をお願いしたりしました。最初は、「それでも負担では？」と思いましたが、その方から「専門部のみなさんが難儀していることは承知しているので、これくらいは手伝わせてください。関わりも持てるので。」と笑顔で応えて頂いた時は、胸が熱くなる思いでした。外部審判員も、関わりのある先輩専門部員のご尽力も有り、協力体制が充実することができました。普段、社会人大会で審判をされている方々の視点で、大会運営についての意見交換もできたことは、運営改善に役立ったと思います。このような協力体制を構築することで一番メリットを受けたのは、若手専門部員だったかと思えます。私もそうでしたが、若手の時期は、自分のチームの指導(試合)だけでなく審判に駆り出されたり、はたまた本部記録等々に追われます。専門部長として先程のような協力体制を充実させることは、若手にとって、自分のチームの指導(試合)に集中できる環境を作ることにつながると思います。指導者として伸び盛りの時期に、真剣勝負に集中できることは貴重な機会だと思います。さらには専門部全体にとっても、競技力の向上に直結することだと今でも信じております。近年の島尻地区勢の県大会、九州大会等での躍進の陰で、専門部運営こうした取り組みが少しでも貢献できていれば幸いです。いまは専門部を離れておりますが、機会があれば、自分なりの恩返しを続けたいと思います。

島尻地区中学校体育連盟、サッカー専門部の今後のご発展を祈念しております。



「サッカーで繋がる仲間」

専門部長 専門部 サッカー
氏名 宮城義隆

島尻地区中学校体育連盟 40 周年を迎えるにあたり、心よりお祝い申し上げます。

今から遡ること二十数年前、教員に成り立ての私は当時の部活動主任から「義隆先生、サッカー部の顧問をお願いね！」の一言でサッカー部顧問としてのキャリアをスタートさせました。その頃は私自身サッカーの経験がほとんどなく、どのように部活動の指導や運営をしていけば良いのか、不安を抱えていたのを今でも覚えています。そんな私に当時のサッカー専門部の先輩方は、サッカーの指導や審判、ピッチ設営など、様々なことを教えてくれました。そして私も徐々にサッカーの素晴らしさや魅力の虜になり、その指導に積極的に関わっていくようになりました。その当時から現在に至る中で、多くの選手や指導者との出会いがあり、私自身の貴重な財産になっています。

その中でも特にサッカー専門部のメンバーとの繋がりは何事にも代えがたい大切なものとなっています。専門部の仲間とは、指導法やサッカー観について熱く議論したり、時には子どものように純粋に勝ち負けを競ったり、また、実際にサッカーをして汗を流したりと、サッカーを通して親交を深めてきました。また、サッカーの話題だけにとどまらず、所属する学校の生徒指導の悩みや教員としてどうあるべきかなど、より深みのある話題について語り合うことも多く、教員としての資質も互いに高め合っています。そして、専門部は若者から大先輩まで幅広い年齢層のメンバーで構成されており、その中でベテランがこれまでの経験を伝え、若者はそれらを受け止めつつも、新しい視点での意見を出すことによって互いに相乗効果を発揮し、常に発展し続けています。

また私自身、専門部長の役割を 3 年間(平成 21~23 年度)仰せつかり、微力ながら専門部の世話役を担いました。その中で、地区を取りまとめる難しさを身をもって感じましたが、専門部の協力のお陰でその役割を果たすことができました。改めて専門部への感謝の気持ちを抱くとともに、歴代の専門部長に対しての敬意の念を感じているところです。また、専門部長としては地区中体連の専門部会等で中体連の役員や他競技の専門部長との関わりもあり、サッカー以外の見識も拡げることができました。

本地区の競技力に関しては、数年前までは県大会でベスト8入りを逃すことがしばしばあり、低迷していた時期もありましたが、近年は優勝や準優勝など、上位進出することが増えています。これもひとえに当該チームの指導者と選手の努力の賜であることは間違いありませんが、地区専門部がこれまでにコツコツと積み上げてきた取組の成果でもあると考えています。具体的にはピースリーグの開催や地区選抜チームの県外遠征などで、これらは 10 年以上継続しており他地区にも誇れる取組であると自負しています。

今後の島尻地区中体連並びにサッカー専門部の益々の発展を祈念致します。



「サッカー専門部に携わって」

元島尻地区サッカー専門部長
伊集守朋

島尻地区中体連創立40周年おめでとうございます。将来を担う多くの子供達の教育にご尽力をいただいた諸先輩方、ご協力いただいた保護者・地域の皆様方に厚く御礼申し上げます。

私がサッカー専門部に携わる事になって18年目になります。補充を初めた平成8年度を含め、平成10年度に西崎中学校に新規採用として教員をスタートし、今振り返ってみればいつの間にかこのような年数になっていました。初めて補充をしました豊見城中には当時、専門部長の慶留間清和先生が勤務しており、私自身から一緒にサッカーを指導していきたいと申し出たことがサッカー専門部に携わるきっかけになりました。

平成12年度に前任の慶留間清和先生から専門部長の大役を引き受ける事になりました。当時は自分自身の見通しの甘さがあり、大会運営など色々な点で多くの方々にご迷惑をお掛けしてしまいました。それにもかかわらず永山清勝先生や瀬長盛光先生を始め諸先輩方から時には厳しく、時には優しく助言していただきました。そして島尻地区は平成13年度沖縄県ユース(U-15)サッカー選手権大会で三和中が優勝して以来、長い間県大会で結果を残すことができないことがあり、私は「早く結果を残したい」と言った事がありましたが、その時に先輩から言われた「目先の勝利ばかりではなく先をみた指導をしろ」「今やっている事を信じろ。自ずと結果はついてくる」と言われた言葉が今でも心に残っています。近年の島尻地区の県大会や九州での活躍をみれば、私達が継続的に行ってきたピースリーグや地区トレセン活動が結果として表れてきた成果だと思えます。それだけではなく高校や上の各カテゴリーでも島尻で育ってきた人材が選手や指導者などとして活躍しています。

専門部に携わることになり沖縄の各地区や他県の指導者との数々の出会いの場があり、指導方法や意見交換など多くの事を学ぶことができました。この18年間で特に学んだ事はあらためての事になりますが「人間育成」の重要性です。サッカーを通して人を育てていく。これからもこの「人間育成」を基に子供達の成長を見守りながら指導していきたいと思えます。そして私には専門部を通しての夢があります。『海外で通用する選手・日本を代表する選手』を島尻から輩出したい。もしかすると私が生きている間には叶わないかもしれない。しかし太い幹がいくつも枝分かれしいつか大輪の花を咲かすように専門部の後輩達の世代が我々の想いを紡いでいき必ず夢が叶うことと信じています。

98年W杯優勝国フランス代表監督エメ・ジャッケ氏が述べた言葉があります。

『指導者が学ぶことをやめたならば、指導者は教える事をやめなければならない』
これからも私自身を成長させてくれた専門部のスタッフと共に可能性あふれる未来ある子供達の成長と活躍に想いを馳せながら指導者として努力を継続していきたいと思えます。

「島尻地区中学校体育連盟40周年に思いを込めて」

具志頭中学校サッカー部顧問
一般社団法人 沖縄県サッカー協会
3種委員長 瀬長盛光

島尻地区中学校体育連盟40周年、誠におめでとうございます。衷心よりお慶び申し上げます。さて、本県サッカー協会中学委員会においては、サッカーの指導を通して「中学生年代の健全育成」「サッカーの競技力向上」「沖縄から日本代表選手を」等、日本サッカー協会の『2005宣言』のビジョンを基に競技環境を整えリーグ戦文化の定着、指導者の質の向上、サッカー環境の充実を図る等本県が取り組める目標を設定し中体連チーム、クラブチームを含めた3種委員会で取り組んでいる。

島尻地区中学校サッカー専門部では、県が取り組む以前から独自の取り組みをしてきた。一つ目は、12年前から「島尻地区中学校サッカーピースリーグ」を開催している。初めたその背景には、地区陸上大会に向けて部活動に携わる多くの先生方が陸上の指導に当たり生徒が自ら入部したサッカー部やその他の部活動の生徒への指導が疎かになった。新チームになった大切な時期に指導を受けることができない、目標を持って活動することができない環境になり大きなマイナスになる期間ができた。それを克服するために定期的な実施できるリーグ戦を導入した。当初はいろいろな苦情があり目的を説明するのに苦慮したが3年目頃から専門部の取り組みに賛同する方々が増え現在に至っている。

二つ目は、「サッカートレーニングセンター」通称トレセン活動である。島尻を東西に分け10年以上取り組んできた。その成果を発揮する集大成として千葉県八千代市で開催されている「コミュニティワールドカップサッカーin 八千代」の大会に参加して11年になる。第1回目の参加時には第4位、その後はあまり力を発揮できずにいたが、平成26年度は最高位の第3位という結果を出すことができた。現在では島尻地区内の認知度も高く、多くの方々から理解を得られるようになってきている。

三つ目は、選手育成と各チームの強化について、最近の島尻地区チームの成績は安定した結果を残すようになった。平成25年度第47回沖縄県中体連夏季大会において長嶺中学校が島尻地区代表としては25年ぶりの県大会優勝を果たした。また、沖縄県中学校(U-14)サッカー大会では、4年連続3位以上の成績を残している。選手全体を見ると「ピースリーグ」「トレセン活動」「八千代遠征」を経験した選手達が高校に進学しインターハイや高校選手権に出場し活躍する選手が毎年増えてきた。

以上の三点は島尻地区中学校サッカー専門部が地道に取り組んできた成果である。その結果、「選手の競技力の向上」「指導者の指導力の向上」、「保護者からの理解と協力」「トレーニングの充実」等が上げられる。また、今年はJリーグのトップチームが多く沖縄でキャンプを実施してくれたことは選手、保護者、指導者他関係各位に多大なる良い影響を与えた。今後もサッカーを通してより良い生徒(選手)の育成を目指し、人間性を高める島尻独自の育成環境を整備し発展させていくことが大切である。

最後に島尻地区中学校体育連盟と各種目部活動全体が、今まで以上に発展し、子ども達の未来に向け活躍できる環境をともに創り上げる必要があると考えている。

歴代専門部長

競技名（ 軟式野球 ）

西 暦	年 号	専門部長名	学校名
2005年	平成17年	金城 弘周	西崎中
2006年	平成18年	知念 正成	潮平中
2007年	平成19年	〃	〃
2008年	平成20年	新垣 光史	三和中
2009年	平成21年	〃	〃
2010年	平成22年	宮平 圭一郎	具志頭中
2011年	平成23年	新垣 光史	潮平中
2012年	平成24年	座間味 栄行	与那原中
2013年	平成25年	〃	〃
2014年	平成26年	〃	〃



（ 金城 弘周 ）
平成17年



（ 知念 正成 ）
平成18～19年



（ 新垣 光史 ）
平成20～21、23年



（ 宮平圭一郎 ）
平成22年



（ 座間味栄行 ）
平成23～26年

沖縄県大会上位入賞校(選手権大会は三位以上)

年号		回	県中学校野球選手権大会	回	全日本少年春季 中学校軟式野球大会	回	県中学校新人軟式野球大会	回	海邦銀行杯争奪 中学校軟式野球大会	備考
H17	優勝	第57	三位:伊良波中	/		第9	東風平中	第12		
	準優勝									
H18	優勝	第58	三位:佐敷中	/		第10		第13	東風平中	
	準優勝								玉城中	
H19	優勝	第59	三位:佐敷中	/		第11		第14		
	準優勝									
H20	優勝	第60	三位:玉城中	/		第12	伊良波中	第15	与那原中	
	準優勝									
H21	優勝	第61	佐敷中	第1		第13		第16		佐敷中 全国三位
	準優勝									
H22	優勝	第62	三位:玉城中	第2	知念中	第14	知念中	第17		
	準優勝				豊見城中		豊見城中			
H23	優勝	第63	知念中	第3		第15	東風平中	第18	南風原中	
	準優勝						南星中			
H24	優勝	第64	南星中	第4	兼城中	第16		第19	東風平中	東風平中 全国準優勝
	準優勝		三位:大里中						南星中	
H25	優勝	第65		第5		第17		第20		
	準優勝									
H26	優勝	第66	三位:南星中	第6	玉城中	第18	豊見城中	第21		
	準優勝									



「 感 謝 」

地区野球専門部部長

氏名 座間味 栄行

この度、島尻地区中学校体育連盟が40周年記念を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

創立40周年を迎えることが出来たことは、ひとえに会長はじめ、中体連役員、先生がたの並々ならぬご尽力の成果と存じ上げます。この良き日に、輝かしい伝統を持つこの島尻地区中体連に在籍していることを誇りに持つとともに、今の自分を振り返り、これからの決意を新たにしていく所存です。

私ごとで恐縮ですが、思い起こせば10年前初めての学校現場がこの島尻地区でした。そして、この10年間島尻地区中体連野球専門部に携わってきました。最初は戸惑いや不安なことだらけでしたが、先輩がたや中体連のみなさんに支えられ3年間専門部長としてここまで頑張ることができました。この島尻地区の理念、風土、信頼関係に触れながら活躍の場をつくって頂きましたことを心から謝意を申し上げます。

また、当島尻地区野球専門部は、先の沖縄県新人大会優勝の豊見城中学校をはじめ、この10年間で県大会優勝が13回(8校)を数えました。今後も野球専門部、島尻中体連が一体となり、生徒の健全育成を願い、更なる資質の向上を図る為、研鑽研究を重ねていきます。地区野球専門部のなお一層の充実を画すことが、島尻中体連の方への報恩と考えております。

これまでの、地区中体連や地区野球専門部の伝統を踏襲しつつ、これからの新しい時代にあった特色ある専門部づくりに邁進し更なる発展に向け努めてまいる所存です。

今後とも、より一層ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、島尻地区中体連様がたのご健勝とご多幸をお祈りし、挨拶とさせていただきます。

「 島中体連40年を振り返って 」

地区野球専門部顧問

氏名 玉那覇 勝己

40周年おめでとうございます。

定年の年から、野球専門部の顧問として若い先生方と一緒に、試合終了後の懇親会にも参加させてもらい、楽しい10年でした。20周年、30周年、そして40周年の記念として寄稿できることを光栄におもいます。

不思議なことに、初任の兼城中学校に赴任した時から合併の話はあり、知念中学校に赴任した時、知念地区と糸満地区が合併して島尻地区となり、その後、与那原中学校を経て、南風原中学校で10周年を迎えたが、式典は開催できず、2年後離島の慶留間小中学校で2年、本島の大里中学校で5年、三和中学校3年目で20周年を迎えたが、10周年記念を開催していないため、20年分の資料集めは苦勞しました。特に表彰規定は大変苦勞しました。式典が終わったその年から、他地区交流で、中頭地区の西原東中学校で、3年の勤務、その後、初任校だった兼城中学校へ2度目の赴任、教え子の子供たちを指導し、3年後、東風平中学校の2年の勤務を経て、豊見城中学校へ、そして定年を迎えた年に、30周年記念を開催、10年後の今回の40周年です。私の教職人生の節目、節目に迎えた周年記念、とても感慨深いものです。さらに、今回の式典で長年に渡る外部コーチとして表彰を受けた兼城中学校野球部コーチの大城哲夫君は、初任校での最初の教え子であり、2度目の赴任の時、少年野球の監督をしているのを無理言ってコーチに就いてもらいあれから17年間も頑張ってくれました。おめでとう。そして、ありがとう。

今後の島中体連の団結、発展を願い、また50周年にも参加したいものである。

「好きな野球が出来」

「好きな野球を教え」

「好きな野球で苦勞しても」

「やはり我が人生野球なり」

歴代専門部長

競技名（柔道）

西暦	年号	専門部長名（学校名）
2005年	平成17年	玉寄 兼明
2006年	平成18年	玉寄 兼明
2007年	平成19年	玉寄 兼明
2008年	平成20年	平仲 健
2009年	平成21年	平仲 健
2010年	平成22年	小川 浩
2011年	平成23年	小川 浩
2012年	平成24年	小川 浩
2013年	平成25年	小川 浩
2014年	平成26年	小川 浩



（玉寄 兼明）
平成17～19年



（平仲 健）
平成20～21年



（小川 浩）
平成22～26年

(柔 道)

☆夏季大会 (第 3 1 回～ 4 0 回)

回数	年度	男 子		女 子	
		優勝校 (指導者名)	準優勝校 (指導者名)	優勝校 (指導者名)	準優勝校 (指導者名)
3 1	平成 1 7 年度	西崎中学校 A (玉寄 兼明) (玉城 則雄)	豊見城中学校 (與儀 幸朝) (玉城 政芳)	西崎中学校 A (玉寄 兼明) (玉城 則雄)	南星中学校 (友利 忠司) (大城 国彦)
3 2	平成 1 8 年度	西崎中学校 A (玉寄 兼明) (玉城 則雄)	与那原中学校 (平仲 健) (岩崎 哲也)	西崎中学校 (玉寄 兼明) (玉城 則雄)	与那原中学校 (平仲 健) (岩崎 哲也)
3 3	平成 1 9 年度	西崎中学校 A (玉寄 兼明) (玉城 則雄)	与那原中学校 (平仲 健) (岩崎 哲也)	西崎中学校 A (玉寄 兼明) (玉城 則雄)	与那原中学校 (平仲 健) (岩崎 哲也)
3 4	平成 2 0 年度	南風原中学校 (金良 猛)	西崎中学校 A (友利 忠司) (伊禮 実)	西崎中学校 (友利 忠司) (伊禮 実)	豊見城中学校 (與儀 幸朝) (玉城 政芳)
3 5	平成 2 1 年度	南風原中学校 (比嘉 麻希) (小橋川 幸作)	与那原中学校 (平仲 健) (玉城 誠)	豊見城中学校 (小川 浩) (平良 哲也)	西崎中学校 (友利 忠司) (伊禮 実)
3 6	平成 2 2 年度	南風原中学校 A (田中 秀人) (山城 勝)	南風原中学校 B (田中 秀人) (山城 勝)	与那原中学校 A (平仲 健) (村吉 東)	西崎中学校 (友利 忠司) (伊禮 実)
3 7	平成 2 3 年度	南風原中学校 A (田中 秀人) (小橋川 幸作)	西崎中学校 A (友利 忠司) (伊禮 実)	西崎中学校 (友利 忠司) (伊禮 実)	与那原中学校 (平仲 健) (村吉 東)
3 8	平成 2 4 年度	南風原中学校 A (田中 秀人) (小橋川 幸作)	南風原中学校 B (田中 秀人) (小橋川 幸作)	与那原中学校 (糸数 貴之) (玉城 誠)	豊見城中学校 (小川 浩) (濱里 一)
3 9	平成 2 5 年度	南風原中学校 A (宜野座 諭) (小橋川 幸作)	南風原中学校 B (宜野座 諭) (小橋川 幸作)	与那原中学校 (糸数 貴之) (辻 邦公)	西崎中学校 (上間 達也) (伊禮 実)
4 0	平成 2 6 年度	南風原中学校 A (宜野座 諭) (小橋川 幸作)	与那原中学校 (糸数 貴之) (下地 克)	与那原中学校 A (糸数 貴之) (下地 克)	与那原中学校 B (糸数 貴之) (下地 克)

(柔 道)

☆新人大会 (第31回～40回)

回数	年度	男子		女子	
		優勝校 (指導者名)	準優勝校 (指導者名)	優勝校 (指導者名)	準優勝校 (指導者名)
31	平成17年度	西崎中学校A (玉寄 兼明) (玉城 則雄)	西崎中学校B (玉寄 兼明) (玉城 則雄)	西崎中学校 (玉寄 兼明) (玉城 則雄)	佐敷中学校 (比嘉 憲) (玉城 誠)
32	平成18年度	西崎中学校A (玉寄 兼明) (玉城 則雄)	与那原中学校 (平仲 健) (岩崎 哲也)	西崎中学校 (玉寄 兼明) (玉城 則雄)	与那原中学校 (平仲 健) (岩崎 哲也)
33	平成19年度	西崎中学校A (玉寄 兼明) (玉城 則雄)	南風原中学校 (金良 猛)	与那原中学校A (平仲 健) (岩崎 哲也)	西崎中学校 (玉寄 兼明) (玉城 則雄)
34	平成20年度	南風原中学校A (金良 猛)	西崎中学校A (友利 忠司) (伊禮 実)	豊見城中学校 (與儀 幸朝) (玉城 政芳)	与那原中学校 (平仲 健) (玉城 誠)
35	平成21年度	南風原中学校 (比嘉 麻希) (小橋川 幸作)	与那原中学校 (平仲 健) (玉城 誠)	西崎中学校 (友利 忠司) (伊禮 実)	与那原中学校 (平仲 健) (玉城 誠)
36	平成22年度	南風原中学校A (田中 秀人) (山城 勝)	西崎中学校A (友利 忠司) (伊禮 実)	西崎中学校 (友利 忠司) (伊禮 実)	与那原中学校 (平仲 健) (村吉 東)
37	平成23年度	南風原中学校A (田中 秀人) (小橋川 幸作)	西崎中学校 (友利 忠司) (伊禮 実)	与那原中学校 (平仲 健) (村吉 東)	西崎中学校 (友利 忠司) (伊禮 実)
38	平成24年度	南風原中学校A (田中 秀人) (小橋川 幸作)	西崎中学校 (上間 達也) (伊禮 実)	与那原中学校 (糸数 貴之) (玉城 誠)	豊見城中学校 (小川 浩) (濱里 一)
39	平成25年度	南風原中学校A (宜野座 諭) (小橋川 幸作)	南風原中学校B (宜野座 諭) (小橋川 幸作)	与那原中学校 (糸数 貴之) (辻 邦公)	西崎中学校 (上間 達也) (伊禮 実)
40	平成26年度	与那原中学校A (糸数 貴之) (下地 克)	南風原中学校A (宜野座 諭) (小橋川 幸作)	与那原中学校 (糸数 貴之) (下地 克)	西崎中学校 (大城 磨莉絵) (伊禮 実)



「柔道への感謝」

島尻地区柔道専門部 専門部長
南風原町立南風原中学校
氏名 小川 浩

私が沖縄で教員になって13年になります。初任校が糸満市立西崎中学校で、柔道部は糸満市内の小学校からの柔道経験者が入学し、県でもトップクラスの力を持つ柔道部でした。私自身、小学校から大学まで柔道を続けた経験から中学生と一緒に汗を流すことに楽しさや喜びがありました。その上、毎年夏には九州大会や全国大会に行く機会をいただき、全国トップレベルの柔道を見ることができたことも本当に感謝しきれないことだと思えます。

5年前から島尻地区の柔道専門部長を任され大会を運営してきました。私が沖縄に赴任した当時は、柔道部のある中学校が島尻地区に7校ありましたが、現在は4校まで減ってしまいました。理由の一つに柔道専門の教師や指導者の少なさがあります。これから若い指導者が教え子たちから育ってくれることを祈りながら島尻地区の柔道活性化に少しでも役立つよう精進していこうと思っています。



「 南風原中学校柔道部の顧問として 」

南風原町立南風原中学校
教諭 宜野座 諭

南風原中学校の柔道部顧問となって、約2年が過ぎようとしている。

初めて出会った柔道部員の印象は「気は優しくて力持ち」のことばの似合う部分と、少々やんちゃな部分を併せ持ったとても元気な生徒たちであった。

多数の部員の毎日の稽古は、早朝のトレーニングから始まり、放課後の稽古で仕上げる。柔道の稽古は危険が伴うため、常にコーチがついて活動することが柔道部の決まりごととして浸透している。そのような毎日の稽古を継続してきた彼らの実績は素晴らしく、現在島尻地区夏季大会を7連覇。島尻地区新人大会を6連覇し、沖縄県中学校夏季大会においても6連覇中である。部員は3年生9名、2年生11名、1年生13名の計33名の大所帯である。武道場も手狭となり、満足のいく稽古時間を確保するのも難しくなってきた。

しかしながら、九州大会や全国大会に出場し、勝利するという目標を達成するためにも妥協せず一步一步精進を重ねて、少しでも彼らの活躍に寄与できるように保護者会の協力を得ながら見守っていきたい。



「 中学校3年間で柔道から学んだこと 」

南風原町立南風原中学校
3学年 柔道部 主将
氏名 野原 寛至

僕が中学校3年間で柔道を通して学んだことは、「努力すると必ず報われる」ということです。

僕が所属する南風原中学校柔道部は、毎日朝5時半から朝練をし、午後は2時間程度練習をします。つらい練習ですが、みんなが一つになって日々努力を続けてきました。

その努力の甲斐あり、今年の春に出場した全国レベルの大会で全く力が出せずに大差で負けた学校に、夏の全国大会ではみんなが自分の柔道をしっかりやり、100%の力を出して戦うことができました。負けはしましたが、みんな悔いはなかったです。それは、みんな今まで努力してきたことを全て出し切ったからです。でも負けたということはまだまだ努力が足りなくて、相手の方がもっと努力してきたんだなと思いました。

この負けを忘れることなくバネにし、高校では日々努力していきたいと思いました。この3年間で何ものにも変えられない大切なことを柔道から学ぶことができました。

平成 17 年度～ 26 年度の県夏季総体・県新人大会成績および九州・全国大会出場校

	県夏季総体	県新人大会	九州大会出場	全国大会出場
平成 17 年度	【女子団体 3 位】 伊良波中学校			
平成 18 年度				
平成 19 年度				
平成 20 年度		【男子団体 3 位】 南風原中学校 【女子団体 4 位】 南風原中学校		
平成 21 年度	【男子団体準優勝】 南風原中学校	【男子団体 2 位】 南風原中学校 【男子団体 4 位】 豊見城中学校 【女子団体 3 位】 南風原中学校	【男子団体】 南風原中学校	
平成 22 年度	【男子団体優勝】 南風原中学校 【女子団体 3 位】 南風原中学校	【男子団体 3 位】 南風原中学校 【女子団体優勝】 南風原中学校 【女子団体 4 位】 豊見城中学校	【男子団体】 南風原中学校	【男子団体】 南風原中学校
平成 23 年度	【女子団体準優勝】 南風原中学校	【男子団体 3 位】 南風原中学校 【女子団体優勝】 南風原中学校	【女子団体】 南風原中学校	
平成 24 年度	【女子団体 3 位】 南風原中学校 【女子個人優勝】 松門由姫(南風原中) 【女子個人準優勝】 浦崎莉佳(南風原中) 【女子個人 3 位】 川井麻美(南風原中)	【男子団体準優勝】 長嶺中学校 【女子団体準優勝】 南風原中学校	【女子個人】 松門由姫(南風原中) 浦崎莉佳(南風原中) 川井麻美(南風原中)	【女子個人】 松門由姫(南風原中) 浦崎莉佳(南風原中)
平成 25 年度	【男子団体優勝】 長嶺中学校 【女子団体 3 位】 南風原中学校 【男子個人準優勝】 仲本美麗(長嶺中) 【男子個人 3 位】 比嘉(長嶺中) 大城(長嶺中)	【女子団体 3 位】 伊良波中学校	【男子団体】 長嶺中学校 【男子個人】 仲本美麗(長嶺中) 比嘉(長嶺中) 大城(長嶺中)	【男子団体】 長嶺中学校 【男子個人】 仲本美麗(長嶺中)
平成 26 年度	【女子団体準優勝】 伊良波中学校	【男子団体 3 位】 伊良波中学校 【女子団体 3 位】 伊良波中学校	【女子団体】 伊良波中学校	



2013年 県夏季総体優勝（長嶺中学校男子）



2010年 県夏季総体優勝（南風原中学校男子）



島尻地区剣道の競技力向上と底辺拡大

剣道専門部長

仲間 大 輔

平成19年、中頭地区の与勝中学校から南風原中学校に赴任すると同時に、島尻地区の剣道専門部長を引き受けました。それまでは、中頭地区で中体連に関わっておりました。私自身の地元である南風原中学校、そして島尻地区で貢献できることに喜びを感じながら、専門部長という大役に挑んだことを覚えております。

○赴任当時（平成19年）の島尻地区剣道の現状と底辺拡大

当時の島尻地区剣道は、団体戦出場チームが男女とも5校程度であり、剣道人口は極めて少ない状況にありました。外部コーチである外間さんのもとで稽古を積んでいた東風平中学校が孤軍奮闘している状況でした。私が赴任した南風原中学校も部員は数名であり、武道場は、野球部が土足で入り練習をしており、赤土で床が痛んでいました。

島尻地区には、小学校を対象とする「少年剣道クラブ」がいくつかあります。南城市の「玉泉剣道クラブ」「錬磨会」、与那原町の「若駒励心会」、南風原町の「津嘉山剣道クラブ」、豊見城市の「豊見城少年剣道クラブ」などがありました。しかし、受け皿となる中学校には剣道経験者である教員がおらず、外部コーチに頼る状況でした。剣道人口の底辺拡大を急務と考え、南風原中学校区内の小学生を対象に「黄金森剣道クラブ」を立ち上げ、中学生と一緒に週3回の稽古を行いました。毎年、黄金森剣道クラブの卒業生達が入部し、南風原中学校の部員数は大幅に増加し最大30名以上になりました。黄金森剣道クラブの指導者には、仲村兼義（教師七段・全日本選手権出場）・仲村兼一（五段・インターハイ出場）下地博文（五段）・外間香識（五段）など地元南風原町のメンバーが精力的に後輩指導に努めてくれました。現在も黄金森剣道クラブは活動しており、南風原中学校と密接な関係にあります。底辺拡大のためには、「地域との連携」「少年剣道クラブとの合同稽古」「小中連携」が必要不可欠であると感じました。人数が確保できれば、部内で「競争」が生まれます。指導者が子ども達を刺激すれば、競技力が向上していくと思います。

○競技力向上（全中出場を目指して）

島尻地区の剣道競技力。県大会において、個人戦での上位入賞はありますが、団体戦では、結果を残すことができない状況でした。専門部長になった平成19年頃は、個人戦・団体戦ともに厳しい状況にありました。私が、まず目標としたことは、夏の全国大会へ団体戦で出場することを挙げました。島尻地区から夏の全国大会に出場したチームがこれまで1校もありませんでした。

平成20年から南風原中学校が力を付けてきました。男子団体の1年生チームでありながら、県新人大会3位の快挙。平成21年、県夏季大会で男子団体準優勝、平成22年、念願の県夏季大会優勝。8月には、島尻地区初の全国大会団体出場を成し遂げることができました。当時の南風原中学校が全国大会に出場できた背景には、充実した指導者陣の他、ライバル校の存在もありました。小学校教諭である井上慶先生が外部コーチを務める豊見城中学校です。島尻地区の決勝戦では、南風原中学校と豊見城中学校が熱戦を繰り広げました。お互いに切磋琢磨したことが、競技力向上につながったと考えます。島尻地区の剣道部は、初心者を主体としたチームが多く、小学校からの経験者が多く入部する那覇地区

や中頭地区と対抗するためには、徹底的に初心者を鍛える必要がありました。また、島尻地区では、毎月第一土曜日に指導者の稽古会を実施し、「師弟同行」「率先垂範」をモットーに努力しました。そういったことが、全国大会出場につながったと考えます。

平成25年には、長嶺中学校が島尻地区で2度目の男子団体戦において全国大会出場を成し遂げます。外部コーチの大城明博さんと当時那覇高校教諭であった大浦勲先生が生徒達を鍛え上げておりました。県大会の団体戦決勝では、石田中学校を僅差で破り、個人戦においては、ベスト4中、3人が長嶺中学校という快挙でした。

平成20年からは、南風原中学校、長嶺中学校、伊良波中学校、豊見城中学校が、県夏季大会、県新人大会でベスト4以内に入賞するなど、実力がついております。この7年間で県夏季大会優勝2回、県新人大会優勝2回、準優勝7回、3位8回。これまで、那覇地区や中頭地区に独占されていた状況を一変し、島尻地区からの上位入賞が非常に多くなっております。

○現在の島尻地区剣道

南風原中学校と伊良波中学校の2校が部員数、指導者陣ともに充実しており力があります。現在、伊良波中学校が県大会で上位入賞している。平成26年度は、女子団体が県夏季大会で準優勝。県新人大会では、男女とも3位入賞しました。去る3月に行われた全国選抜中学校剣道大会では、各県の1位校相手に堂々とした戦いをしていました。島尻地区のみならず、沖縄県全体の中学生に共通していえることは、「県外遠征」の経験が浅すぎるということです。九州・全国では、毎週のように県外遠征を実施し、県をまたいで切磋琢磨しています。沖縄県の場合、遠征費や時間の関係で容易ではありません。今年の11月、その経験の浅い部分を補い、技術向上を目的として、全国大会出場常連校で、今年度の九州大会個人2位選手を輩出した鹿児島城西中学校を招聘しました。名将永田崇博先生による「実技指導」「指導理念」等を3日間に渡り、徹底的に学ぶ機会を設けました。伊良波中学校父母会が全面協力して頂きました。技術向上だけでなく、生活面や父母会の在り方など多くのことを学ぶことができます。今回は、伊良波中学校単独で実施しましたが、今後、島尻地区の中学生全体を巻き込んでみるのも面白いと思います。

○後輩の指導と指導者育成

この10年間、島尻地区出身で高校・大学・一般等で活躍している選手は多くいます。屋富祖俊貴（南風原中→那覇高→県警）、城間太一（南風原中→那覇高→東海大）は高校でもインターハイに出場し将来が期待されています。伊禮聖人（南風原中→那覇高→県警）は、中学校時代に陸上（砲丸投げ）でも県大会1位の記録を残しています。大浦祐太（長嶺中→小禄高）は、今年度、1年生ながら県総体2位になり力があります。このような島尻地区出身の選手が、今後、指導者として地元に戻り、後輩の指導になることが競技力向上の近道であると考えます。県外では、このようなサイクルが見事に構築されており、長期に渡って、強さを保持していると思います。公立中学校の教員は転勤があるため、5年間で節目です。指導者が変わり、突如として力を落とす学校・チームもあります。県外も転勤の節目は5年程度ですが、10年・20年と強い地域があります。それは、後輩を育て、指導者として地元に戻るといったサイクルがあるからです。

指導者として、選手の技術向上だけでなく、剣道の理念を追求しながら、教師として地元に戻ってくるような選手の育成をしていくことが、島尻地区中体連剣道専門部として、一番大切であると感じます。



南風原中学校剣道部(黄金森剣道クラブ)外部指導者として

南風原中学校剣道部(黄金森剣道クラブ)
外部コーチ
下地 博文

島尻地区中体連40周年、おめでとうございます。ここに記念誌が発行されますことを心からお祝い申し上げます。

私は、南風原中学校剣道部の外部指導者として、指導のお手伝いをさせていただいております。同時に黄金森剣道クラブの指導者としても活動しております。黄金森剣道クラブは南風原中学校の剣道場で活動しており、現在小学五年生男子、小学四年生男子がそれぞれ二人、小学三年生女子、小学二年生女子がそれぞれ一人、そして小学一年生女子が三人おり、計九人の児童が稽古に参加しています。今年で八年目を迎えますが、これも、校長先生をはじめ、先生方、父母会のご理解とご協力があったことだと感じております。

このような立場で指導させていただくことになったのは、当時南風原中学校剣道部の顧問であった仲間大輔先生からのお話きっかけでした。仲間先生と私は同期で南風原中学校の卒業生でもあり、赴任された年から稽古に参加するようになりました。稽古後によく話をしていたのは、剣道を通して南風原町を盛り上げたい、島尻郡を盛り上げていきたいという熱い思いでした。そのためには、剣道人口の底辺拡大から始めなければという思いから、黄金森剣道クラブが発足されました。私は、その情熱に何とか力になれないかと考え、仲間先生の下で指導のお手伝いをするようになりました。

仲間先生の情熱の他に、もう一つ私が期待していたことがありました。それは、指導法です。南風原中学校に赴任される前は、与勝中学校で顧問をされ、県大会で剣道部を優勝させるなどの実績がありました。与勝中学校は当時剣道部員がおらず、初心者を集めて部活を始めたと聞いていました。その生徒たちを県大会優勝にまで導いたことにとっても興味がありました。

私の中で剣道というものは、小学生のころから経験しておかないと、反射神経や運動能力などが身に付かなくなるのではという考えがありました。また、中学校から始めると指導の内容によっては、細かすぎて生徒が難しく感じてしまい、理解に苦しむ場面が出てきやすいのではという感覚がありました。

しかし、仲間先生は細かい指導よりもまず、剣道が楽しいと思わせることに重点を置いていました。そして、生徒とともに稽古をしていく中でもっと上達したい、もっと強くなりたいと思わせる環境を創り上げていることが分かりました。このような指導は、剣道に限らず子どもたちを成長させていく中で最も基本的なことではないかと感じました。そのことを学ぶことが出来た私は、仲間先生の指導方針をしっかりと理解することに努め、指導に携わることができました。今後も、コーチという立場から顧問の先生との連携を深めながら子どもたちの健全育成に努めていきたいと考えています。

剣道を通して

那覇高等学校
伊 禮 聖 人

はじめに、中体連創立40周年おめでとうございます。そして、このような節目の年に剣道についてお話をする機会をくださりありがとうございます。

私は、兄や姉の影響もあり、小学校2年生から剣道を始めました。小学校の頃の私は、そんなに真剣に剣道をしているわけでもなく、大会に出場しても1, 2回戦で負けていました。そんな私が本気で剣道をやり始めたのは中学校に入学してからでした。

私は小学校の先輩がいたということもあり南風原中学校に入学しました。その時も私は軽い気持ちで剣道をやろうとしていました。しかし、入部し、初めて練習に参加した時にいままでに経験したことのない厳しさを経験し私はいままで自分にどれだけ甘かったのかを気付かされました。また、それと同時に本気で優勝を目指している先輩方や顧問の仲間先生を見て、私ももっと強くなって優勝したいと思いました。

私が3年生になり、迎えた最後の大会。去年先輩方は見事優勝し、全国大会に出場していました。私達も2連覇を目指して大会に挑みました。しかし、結果は予選リーグ敗退。目標を達成できなかったと同時に、いままでにあじわったことのない悔しさを感じました。

高校では、もっと強くなりたいと思い、那覇高校に進学することにしました。入学してすぐに、私は上段という構えをとることにしました。私は自分が強くなるにはこの構えしかないと思い、ひたすら竹刀を振り続けました。そして私達の代になり、迎えた一月の冬季大会では、優勝することができ、春の全国大会に出場することができました。その時に私は今まで諦めずに続けて良かったと思い、努力が報われた気がしました。しかし、それから約五ヶ月後のインターハイ予選では、予選トーナメントで負け、インターハイ出場はできず、私の高校剣道が終わった瞬間でした。

最後の大会では結果を残すことはできませんでしたが、私はこれまでの経験から多くの事を学ぶ事ができました。また、今の自分があるのは、恩師の先生方や支えあった仲間、いつも見守ってくれる親のおかげだと思います。皆さんもその方達への感謝の心を忘れず、たとえ今結果を残せていなくても、諦めずに努力し続けてください。そうすればきっと目標を達成できる日は来ます。

私はこれからも剣道を続け、活躍できるよう頑張ります。皆さんも自分の目標に向かって頑張ってください。

剣道で学ぶ

小禄高等学校

大 浦 佑 太

島尻地区中体連40周年おめでとうございます。私は、長嶺牛学校を昨年卒業しました。中学校入学と同時に剣道部を立ち上げ、男子7名・女子1名からのスタートでした。その際、島尻地区の先生方には、大会や講習等などご指導を頂き大変お世話になりました。当初は、思っていた以上に学校生活と部活動の両立が大変で慣れるまでは心身共にきつかった事を覚えています。

私達は、島尻地区から全国大会に出場するという目標のもと皆で日々の厳しい稽古も励まし合いながら頑張っていました。3年生の県中体連では島尻代表として優勝することができました。これまでの事が実った気がして本当に嬉しかったです。その時、ご指導して下さいました先生方、支えてくれた父母の方々、一緒に頑張った仲間達のお陰だと感謝の思いがあふれてきました。

私は現在小禄高校剣道部で全国大会出場を目標にそこで沖縄の歴史を変える実績を作れるような剣士になる為に仲間と共に日々鍛えてもらっています。頑張れる事を見つけてくれた剣道。その環境を頂いた島尻地区中体連には感謝の思いでいっぱいです。

(空 手 道 競 技)

☆夏季大会 (第 3 1 回～ 4 0 回)

回数	年 度	男 子		女 子	
		優勝校 (指導者名)	準優勝校 (指導者名)	優勝校 (指導者名)	準優勝校 (指導者名)
3 1	平成 1 7 年度	具志頭中学校 (宮里文輝)	久高中学校 (宮里康矢)	長嶺中学校 (當銘初子)	具志頭中学校 (宮里文輝)
3 2	平成 1 8 年度	久高中学校 A (下地貴之)	具志頭中学校 B (網敷昌弥)	久高中学校 (下地貴之)	なし
3 3	平成 1 9 年度	具志頭中学校 (網敷昌弥)	西崎中学校	なし	なし
3 4	平成 2 0 年度	具志頭中学校 A (網敷昌弥)	なし	南星中学校 A (久志奈美子)	南星中学校 B (久志奈美子)
3 5	平成 2 1 年度	高嶺中学校 (比嘉正晃)	南風原中学校 (山城恵子)	南星中学校 (下地早苗)	玉城中学校 (平良 司)
3 6	平成 2 2 年度	高嶺中学校 (比嘉正晃)	長嶺中学校 (知念紀子)	長嶺中学校 (知念紀子)	兼城中学校 (佐久本美穂)
3 7	平成 2 3 年度	高嶺中学校 (野村朝昭)	南風原中学校 (赤嶺直子)	長嶺中学校 (名嘉眞千枝美)	南星中学校 (城間智恵子)
3 8	平成 2 4 年度	南風原中学校 (大城雅子)	大里中学校 (吉本 茂)	南星中学校 (金城五十鈴)	長嶺中学校 (横田純子)
3 9	平成 2 5 年度	伊良波中学校 (亀川善久)	長嶺中学校 (横田純子)	長嶺中学校 (横田純子)	伊良波中学校 (亀川善久)
4 0	平成 2 6 年度	伊良波中学校 (亀川善久)	南風原中学校 (奥田聡子)	伊良波中学校 (亀川善久)	長嶺中学校 (備瀬みずの)

※平成 20 年度以前は、団体形の優勝校に優勝旗を授与。

※平成 21 年度以降は、競技別に得点を与え総合優勝校に優勝旗を授与。

九州大会出場校、県大会・県強化大会成績【空手道専門部】

【九州中体連大会出場】

大会名	選手名(学校)	種目
平成18年度 第2回九州中学校空手道競技大会	具志堅 夏美(高嶺)	女子個人形
	金城 和(長嶺)	女子個人組手
平成24年度 第8回九州中学校空手道競技大会	仲村渠雄大(大里)	男子個人組手

【県中体連夏季大会】

大会名	選手名(学校)	種目	成績
平成21年度 第12回沖縄県中学校空手道競技大会	伊藤奈菜(兼城)	女子個人組手	3位
平成24年度 第15回沖縄県中学校空手道競技大会	仲村渠雄大(大里)	男子個人組手	3位

【県新人大会】

大会名	選手名(学校)	種目	成績
平成18年度 第9回沖縄県中学校新人空手道競技大会	金城 和(長嶺)	1年女子個人組手	優勝
平成20年度 第11回沖縄県中学校新人空手道競技大会	伊藤奈菜(兼城)	1年女子個人組手	3位
平成21年度 第12回沖縄県中学校新人空手道競技大会	前泊喜一郎(長嶺)		3位
平成23年度 第14回沖縄県中学校新人空手道競技大会	照屋夏凜(長嶺)	2年女子個人形	3位
平成25年度 第16回沖縄県中学校新人空手道競技大会	仲村渠湖雪(大里)	1年女子個人組手	優勝
	當山竜生(伊良波)	1年男子個人組手	優勝
平成26年度 第17回沖縄県中学校新人空手道競技大会	川村真太郎(伊良波)	1年男子個人形	2位
	宮平秀人(伊良波)	2年男子個人形	3位
		2年男子個人組手	3位
	玉城優弥(高嶺)	2年男子個人組手	3位
	伊良波中学校	男子団体組手	優勝

【県強化大会】

大会名	選手名(学校)	種目	成績
平成20年度 第1回沖縄県中学校春季空手道競技大会	伊藤奈菜(兼城)	1年女子個人組手	2位
平成21年度 第2回沖縄県中学校秋季空手道競技大会	平良拓巳(豊見城)		3位
平成24年度 第5回沖縄県中学校春季空手道競技大会	照屋夏凜(長嶺)	代表女子個人形	3位
平成24年度 第5回沖縄県中学校秋季空手道競技大会	仲村渠雄大(大里)	2年男子個人組手	2位
平成25年度 第6回沖縄県中学校春季空手道競技大会	仲村渠湖雪(大里)	1年女子個人組手	優勝
平成25年度 第6回沖縄県中学校秋季空手道競技大会	仲村渠湖雪(大里)	1年女子個人組手	優勝
	當山竜生(伊良波)	1年男子個人組手	優勝
平成26年度 第7回沖縄県中学校春季空手道競技大会	當山竜生(伊良波)	代表男子個人組手	2位
平成26年度 第1回全国中学校空手道選抜沖縄県予選大会	川村真太郎(伊良波)	1年男子個人形	優勝
	當山竜生(伊良波)	2年男子個人組手	優勝



「空手道専門部長としての10年間」

空手道競技 専門部長
平良 司

私が空手道競技の専門部長になるきっかけとなったのは、ちょうど10年前の「地区中体連30周年記念式典」でした。式典の余興で空手の演武を頼まれ、その余興を見た当時の理事長であった友利忠司先生の目にとまりました。当時は友利先生が空手道の専門部長を代行していたため、式典の数日後には専門部長をやってくれないかとの依頼がありました。中学校の補充教員1年目を終えようとしていた時期でもあり、大きな不安を感じながらも、本地区の空手道競技の継続に寄与できたらという思いで引き受けました。

そのような形で島尻地区の空手道競技を担当することになったものですから、右も左もよくわからない状況で、県中体連空手道専門部の先生方の指示を仰ぎ、引率の先生方の協力も得て、何とか初めての大会運営を乗り切ったことを覚えています。

中学校現場においては、空手道競技の指導者はほとんどおらず、部活動として空手道部を置く中学校は県全体を見渡しても皆無に等しいものがあります。同時に、他競技と比べ競技人口は少ないと言わざるを得ません。それは、沖縄県における空手道場の方針が競技としての側面よりも、空手道発祥の地を由来とする伝統文化としての側面が大きいことと関係します。特に島尻地区においては、そのような方針を掲げる空手道場が多いことが特徴的であり、それは本地区の競技性の低さや競技人口の少なさとも関係してきました。

しかしながら、ここ数年は伊良波中学校が県レベルの大会において上位に食い込みを見せています。私が専門部長を引き受けたころに比べると、島尻地区の選手も競技レベルが徐々に向上し、本地区内における競技としての空手道の浸透を感じさせます。

また、昨年はWKFのプレミアリーグが県内で初開催され、県出身選手の国内外におけるめざましい活躍が新聞紙面を飾るなど、空手道の競技性に対する認知が深まりを見せています。このような状況が、島尻地区で空手道を志す中学生にとって、少しでも自信と誇りを持たせてくれるものであると期待します。



「島尻地区空手道競技を振り返って」

空手道専門部
(伊良波中学校外部コーチ)
仲本 雄一

島尻中体連 40 周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

私が島尻中体連空手道競技に携わったのは、今から 15 年程前になります。その間、選手を輩出できない時期もありましたが、何かと長く空手道競技を見てきました。当時から、島尻地区での空手道競技は歴史があり、離島である久高島などからも選手が出場していたのを覚えております。

ここ沖縄において、空手道は、スポーツ競技というより、伝統文化的な側面が強く、特に島尻地区空手道競技、形競技に関しては、伝統的な古流の形を目にすることができました。しかし、ルールで定められた競技形と伝統形の狭間において、島尻地区の選手が県大会で勝ち上がるのは容易ではなかったことを記憶しております。又、組手競技に関して、生徒たちは、それぞれ地域の町道場に通っている子供たちが殆どで、スポーツ競技化した空手道、競技ルールの指導を受ける環境が現在ほど整っておりませんでした。そのため、組手競技に関しては、那覇地区、中頭地区に遅れをとっていたように思います。

現在、島尻地区空手道競技もレベルアップが図られ、組手競技に関しても、随分と成長してきたように感じます。空手道競技は 2020 年のオリンピック正式種目入りに向けて各協力団体とも一致団結し活動しております。島尻地区中体連からも空手道競技に限らず、オリンピック選手輩出という高い目標をもつことで、子供たちの競技力向上は勿論のこと、指導者資質の向上にもつながるのではないのでしょうか。島尻地区中体連 40 周年記念、これも偏に島尻地区中体連の発展と成長にご尽力頂いている関係者各位による賜物であります。心より感謝申し上げます。私自身、これからも地域の子供たちに関わりながら、指導力向上を図り、微力ではございますが、島尻地区中体連の更なる発展、躍進のお手伝いできればと願っております。



「空手道を通しての経験」

空手道競技 兼城中学校卒業生
伊藤奈菜

私は小学生の頃から空手を始めました。中学生の頃は空手道部が学校になかったため、道場に通り練習をしました。しかし、道場には練習相手がいなかったため、基本練習をすることしかできませんでした。周りのサポートや支えがあり中体連の大会では成績を残すことができました。そのおかげで空手の有名な高校にも進学することができ、初めて部活動として練習することが出来ました。

高校3年間では先輩や先生から多くのことを学ぶことができ、またキャプテンをしたことで人との関わり方や周りを見ることが出来るようになりました。高校の3年間は時間に追われ大変で辞めたいときもありましたが、みんなで遠征に行ったり、きつい合宿練習が今ではいい思い出になっています。私は空手を通して、多くの人との知り合うことができ様々な経験をすることが出来ました。

現在は大学の空手道部に入っています。勉強が忙しいためになかなか練習が出来ていませんが、好きな空手は続けていきたいと思っています。

歴代専門部長

競技名（ 体操・新体操 ）

西 暦	年 号	専門部長名	学校名
2005年	平成17年	安里 順一	高嶺中
2006年	平成18年	津波古 要	玉城中
2007年	平成19年	〃	〃
2008年	平成20年	〃	〃
2009年	平成21年	〃	〃
2010年	平成22年	〃	〃
2011年	平成23年	〃	〃
2012年	平成24年	〃	〃
2013年	平成25年	〃	佐敷中
2014年	平成26年	〃	〃

（ 安里 順一 ）
平成17年

（ 津波古 要 ）
平成18～26年



「陸上競技の現状と課題」

陸上競技専門部長 氏名 大城 忍

第56回沖縄県中学校陸上競技大会において、男子2位、女子4位、総合2位という決果であった。島尻地区中体連40周年の中で完全優勝は2回、総合優勝4回である。

年々、球技種目が盛んになっている反面、陸上競技部を持たない学校が大半である本地区ではあるが、毎年のように県大会において上位を競いあえる力を維持している現状を考えてみた。

- ① 年間を通し陸協や中体連主催の競技大会に参加させ、経験を積ませて記録向上に努めている。
- ② 地区陸上大会に向けて各学校体育教師を中心に全教師の理解や協力を得て、部活動と並行させながら取り組んでいる。
- ③ 地区大会は唯一島尻地区の生徒が集い、応援できる大会である。立派な運営と競技に対する各学校の取り組みや統制のとれた応援、そして競争心は他の地区に負けないほど盛り上がる素晴らしい大会である。

など大きく3つを取り上げてみた。

しかし、現実には毎年1回の地区大会や陸上競技の指導については様々な問題点や課題を抱えており、理事や関係者を中心に試行錯誤しながら組織の強化や競技力の向上を図ってきた。そこで今後の課題や問題点をあげてみたい。

- ① 地区陸上大会において企画、運営、競技種目の見直しなど。また、県陸協、島体協、糸体協等の支援に頼っているので審判員の育成や講習会に重点を置きたい。
- ② 九州大会や全国大会に1人でも多く派遣させ、上位入賞できる選手の育成。
- ③ 陸上競技専門部を充実させ、地区の競技力向上や発展に努める。…などである。

以前に比べてさらに下火になっている競技であり、沖縄県全体が競技人口低下のなか島尻地区の競技力は、そのまま維持しておりますので、先輩方が築き上げたことをしっかり受け継ぎ、さらに発展させていきたい。

最後に島尻地区中体連の結成以前から先輩方のたゆまざる御尽力のもとに、今日まで充実、発展させたことに感謝いたします。



「出会いに感謝」

H15 長嶺中学卒－那覇西高－日本体育大学
外間 龍

島尻地区中体連創立40周年おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

私の陸上競技をふり返ると様々な事を思い出します。特に“人との出会い”に関しては本当に恵まれていたとつくづく思います。今でも数々の場面を鮮明に覚え出す事ができます。

私が陸上競技と出会ったのは、長嶺中学校に入学すると同時でした。当時はバスケット部に所属しており、陸上競技？と思うぐらい興味が無く、まさか私が陸上を始めるなど思ってもいませんでした。入学してすぐの校内陸上競技大会で、走高跳1m55cmで優勝し、表彰台横で待機している時の事でした。崎原繁治先生、兼屋辰郎先生に「お前は、陸上競技で生きていけ。」と強く言われました。その言葉がとても衝撃的で今でも覚えています。その言葉が、陸上を始めるきっかけになったかもしれません。当時、学校には陸上専門の先生が居なくて技術練習面で苦勞した事が多かったです。県の陸上大会も、大会前日にユニホームとナンバーカード、競技日程を配られ、ぶっつけ本番で出場する事が普通でした。大会前日に先生にスパイクが必要と言われ、大慌てで、父親とスパイクを買いに行った事が懐かしく思えます。

私にとって一番の出会いは、2年生の頃でした。長嶺中学校に赴任してきた体育教諭（東江寛先生）が陸上の専門であったという事です。東江先生が赴任してから、陸上の技術面が一変しました。教わる事一つ一つ全てが新鮮でした。“走”“跳”“投”とシンプルな競技なのに、陸上の専門の先生と出会い、陸上を夢中になることができました。私にとって“出会い”が人生のターニングポイントとなりました。その後、全国・九州大会出場や地区陸上競技大会での4×100mR3連覇など実績をあげることが出来ました。中学校の頃の経験が大きかったからこそ高校、大学でも陸上競技を続ける事が出来ました。

今現在は、伊良波中学校で勤務し、陸上の指導を行っています。十種競技の経験から“陸上をする”＝フィジカルトレーニング（身体づくり）と考えています。陸上をしたい、身体を鍛えたいと、志願してくる生徒には、上半身と下半身の連動した動き方や、動き出すタイミング、基本姿勢、体幹、巧緻性などのトレーニングを重点的に行い、身体を動かす為の、基本動作を教えるようにしています。体力面での向上が図れば、自発的に練習に向かい、必然的に競技力は上がると考えています。出来ないことが出来る様になる、自分のポテンシャルが上がったなどの成功体験を感じてもらいたい事です。

試合前には、跳躍練習やタイムトライアルといった技術指導を行います。通常の練習では、陸上要素だけの練習は入れずに、体操競技や球技といった、多方面からの要素を多く取り入れることに心がけています。陸上要素だけでは、全く楽しくない練習になってしまい、継続が難しくなるからです。

陸上競技を通し、経験してきたように、“人と出会う事で何かが芽生える”“環境を整えてあげる事で何かが変わる”“指導者として声をかけてあげる”など、何気ない言葉がけや指導方法、選手や先輩への憧れなど、始めるきっかけは何でもいいので、今後、同様にきっかけ作りを大切にしていきたい。

私が一番大切にしている言葉は、「楽しむ中の強さ」です。楽しんでいるだけじゃ強くなりません。勝てるから楽しくなり、継続する事ができる。強い選手ほど、試合を楽しむ為に、準備をしています。言葉のように“楽しむ事を考え続ける心”“夢中になる心”をもってくれる生徒の育成と、それを一緒に達成する生徒との信頼関係の“構築”を目指しています。私も生徒から学び日々、勉強中です。

これまで陸上で経験した事、学んだ事は、陸上競技を通して生徒に還元する事を考えています。常に活動環境を整える事を意識し、今後も指導に励みたいと思います。40周年記念誌の誘いを下さった大城忍先生、陸上専門部の先生方誠にありがとうございました。



-砲丸投と私-

陸上競技
豊里 健

島尻地区中体連創立40周年を迎えるにあたり、心よりお祝い申し上げます。

この度、伊良波中学校教諭大城忍先生よりご連絡を頂き、創立40周年の記念誌掲載のお話をお受けしました。このような記念すべき年の記念誌に私自身の事について掲載させて頂く事を大変光栄に思っております。

さて、今年で陸上競技を始めて11年になります。島尻地区陸上競技大会をキッカケに砲丸投と出会い、沖縄県中学校記録(吉本久也:16.96m)の更新に向けて中学時代を過ごしていたことをよく覚えています。その後、砲丸投の魅力にますます惹かれ、那覇商業高等学校・鹿屋体育大学へ進学し、大学時代には第80回日本学生陸上競技対校選手権大会1位・日本陸上競技選手権大会2位(沖縄県記録樹立:17.28m)という成績を収め、現在は豊見城市立伊良波中学校で勤めています。

中学時代を振り返ってみて、砲丸投を純粋に楽しんでいた！という印象があります。毎日学校が終わって陸上競技場まで走って行き、練習をする、そんな日々を過ごしていました。私の場合、陸上競技を更に楽しくさせてくれたのが、当時の沖縄県記録保持者知念信勝さんの弟である知念秀吉さんの存在でした。当時、具志頭中学校に勤めていた垣花英正先生(現糸満中学校教頭)が「本気のあなたを相手してくれるのは秀吉しかいない」と言い、指導をお願いしてくれたことがキッカケでした。毎日一対一で指導していただき「遠くへ投げるためにはどういう動きをしたら良いのか？考えて練習に取り組まないでだめだよ」と語りかけられたことをよく覚えています。「この感覚かな？こういう動きをすると飛ぶかな？」など常に身体とコミュニケーションをとり(動作感覚を確かめながら)、理想の投げを追求していきました。その中で、「この感覚はなんだ？これだ!!」という新発見を見つけた瞬間の感動やそれが実際の投擲に結びついた時は鳥肌が立つほど興奮したものです。このように自分の投げを確認してはアドバイスを頂き、理想の投げに近づけていく！この作業を繰り返すことで、沖縄県中学校記録を17年ぶりに更新(2005年3月:17.46m)することが出来たのではないかと思います。この貴重な中学時代の経験が、私の原点になったことは間違いないでしょう。

そして現在、伊良波中学校で先輩方のご配慮により陸上を指導する機会を頂いております。そんな中、ふと思うことがあります。教えている生徒たちに、私が指導されたときのような内側から湧き出てくるような楽しさを持たせられているのだろうか？笑顔で笑ってはいるが、何か反応が鈍いなど感じる場所があり、日々、自問自答しています。ある有名な監督さんは“使える指導者と使えない指導者の差について、生徒や指導される立場の人に利用されるかされないかである”と答えています。つまり、私たち指導者・コーチは利用されるくらい生徒たちを惹きつけ、関心・意欲(動機づけ)を高めることがはじめての一步だと言えます。私は今、未熟なため生徒に言われる言葉は「先生、今日何時まで練習するの？」とネガティブな雰囲気になっていますが、いつかは「先生、今日は〇〇の動きを中心にドリルやろうー!!!」と生徒から練習への要望がたくさん出るポジティブな雰囲気を作ることが出来る指導者になりたいと思っております。まだ指導者の道を駆け出したばかりの私ですが、陸上競技の魅力を一人数でも多くの人に知ってもらふこと、そして沖縄から日本代表へ・・・もう5年に迫っているオリンピックへ一人数でも多く出場することを夢に、日々精進していきたくと思っています。最後になりましたが、40周年という歴史ある島尻地区中体連の発展と更なるご活躍を心より祈願致します。

島尻地区中学校体育連盟歴代役員・理事名簿

(平成17年度～平成26年度)

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
会長	宜野座 隆 1	宜野座隆 2	永山清勝 1	永山清勝 2	宮城調仁 1	宮城調仁 2	国吉昇 1	国吉昇 2	具志堅弘 1	具志堅弘 2
副会長	山内 一秀 1	兼屋辰郎 1	兼屋辰郎 2	大城穰治 1	大城穰治 2	平良亮 1	平良亮 2	柳井倉人 1	長嶺文男 1	長嶺文男 2
理事長	友利 忠司 1	大城勝也 1	大城勝也 2	吉田順太 2	吉田順太 3	伊敷尚也 5	嘉味田潤 6	嘉味田潤 7	神里斉 5	神里斉 6
副理事長	平良 真也 1	慶留間清和 1	慶留間清和 2	伊敷尚也 3	伊敷尚也 4	嘉味田潤 5	神里斉 3	與儀幸朝 2	與儀幸朝 3	津波古要 5
事務局長	吉田 順太 1	吉田順太 1	井口盛猛 1	嘉味田潤 3	嘉味田潤 4	下地貴之 3	下地貴之 4	神里斉 4	西條小百合 1	西條小百合 2
会計	沖 晋之介 1	神谷公子 1	神谷公子 2	宮城いつ子 1	宮城いつ子 2	知念良弥 1	知念良弥 2	山口珠里 2	山口珠里 3	上原理恵 4
県中体連 常任理事	當間 剛 1	兼城雅也 1	兼城雅也 2	山田正策 3	神里斉 1	神里斉 2	宜野座諭 4	宜野座諭 5	井上晋吾 1	大城忍 2
	根間広一 1	山田正策 1	山田正策 2	新垣誠 1	上原立誠 1	上原立誠 2	安座間裕哉 1	具志吉正 1	内健二 1	佐和田淳 2
1 三 和	城間智恵子 1	嘉味田潤 1	嘉味田潤 2	事務局長 4	事務局長 5	副理事長 6	玉城信也 2	玉城信也 3	玉城信也 4	笠原健市 1
2 高 嶺	下地貴之 1	安里順一 2	安里順一 3	安里順一 4	安里順一 5	渡名喜優 1	渡名喜優 2	瀬名波敦 3	玉城芳康 1	玉城芳康 2
3 糸 満	安里順一 1	幸地長和 1	幸地長和 2	会計 4	会計 5	外間政順 2	大城尚 6	大城尚 7	大城尚 8	仲田靖 1
4 兼 城	新垣美野 1	大城尚 1	大城尚 2	大城尚 3	大城尚 4	大城尚 5	赤寄芳也 1	新垣美野 3	佐和田淳 1	県常任理事 8
5 東風平	玉城信也 1	赤嶺俊英 1	事務局長 3	具志堅慧子 1	具志堅慧子 2	具志堅慧子 3	上原広美 1	与那覇法子 1	上原広美 2	上原広美 3
6 豊見城	與儀幸朝 1	理事長 2	理事長 3	大城勝也 3	県常任理事 3	県常任理事 4	副理事長 7	事務局長 8	理事長 9	理事長 10
7 具志頭	大城 尚 1	徳嶺亜矢乃 1	神里ゆり子 1	外間政順 1	仲座育美 1	神里ゆり子 2	平良真也 2	金城美月 1	金城美月 2	田港朝也 1
8 知 念	伊敷 尚也 1	伊敷尚也 1	伊敷尚也 2	副理事長 4	副理事長 5	理事長 6	瀬名波敦 2	副理事長 8	副理事長 9	與儀幸朝 4
9 玉 城	大城 勝也 1	会計 2	会計 3	津波古要 1	津波古要 2	津波古要 3	上原理恵 1	上原理恵 2	上原理恵 3	会計 10
10 南風原	会計 1	副理事長 2	副理事長 3	慶留間清和 3	慶留間清和 4	大城忍 1	理事長 7	理事長 8	宜野座諭 6	宜野座諭 7
11 与那原	知念孝子 1	県常任理事 1	県常任理事 2	兼城雅也 3	幸地長和 3	幸地長和 4	幸地長和 5	慶留間清和 5	慶留間清和 6	慶留間清和 7
12 佐 敷	山城 恵子 1	伊波秀一 1	仲座千鶴子 1	伊波秀一 2	下地貴之 2	事務局長 6	事務局長 7	我那覇光浩 1	津波古要 4	副理事長 10
13 大 里	井上 晋吾 1	宜野座諭 1	宜野座諭 2	新垣美野 2	宮城浩也 3	宮城浩也 4	宮城浩也 5	宮城浩也 6	宮城浩也 7	赤嶺俊英 3
21 長 嶺	事務局長 1	事務局長 2	大城吉明 1	大城吉明 2	宜野座諭 3	宮里康矢 1	県常任理事 5	県常任理事 6	濱中美己子 1	備瀬みずの 1
22 西 崎	瀬長 盛光 1	親川聖 1	親川聖 2	友利忠司 2	友利忠司 3	花崎信治 1	花崎信治 2	神谷公子 3	松田優子 1	上間達也 1
23 伊良波	宮城浩也 1	宮城浩也 2	當間剛 1	當間剛 2	當間剛 3	赤嶺俊英 2	大城勝也 4	大城勝也 5	具志吉正 2	県常任理事 8
24 南 星	理事長 1	友利忠司 1	渡部多美子 1	理事長 4	理事長 5	会計 6	会計 7	吉田順太 4	事務局長 9	事務局長 10
25 潮 平	副理事長 1	平良真也 1	前泊隆希 1	前泊隆希 2	柴引悦子 1	瀬名波敦 1	山口珠里 1	会計 8	会計 9	山口珠里 4

※数字は、役員・理事の年数。